

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

2022年度
笹川科学研究助成
助成対象者一覧表

2022年4月
公益財団法人 日本科学協会

目 次

| | | | | (ページ) |
|--------|---------------------|-------|----|-------|
| 2022年度 | 笹川科学研究助成 | 総 | 評 | 3 |
| | 重点テーマ： 「海に関する研究」 | 総 | 評 | 7 |
| | 人文・社会系 | 総 | 評 | 11 |
| | | 助成対象者 | | 15 |
| | 数物・工学系 | 総 | 評 | 17 |
| | | 助成対象者 | | 19 |
| | 化学系 | 総 | 評 | 21 |
| | | 助成対象者 | | 23 |
| | 生物系 | 総 | 評 | 27 |
| | | 助成対象者 | | 31 |
| | 複合系 | 総 | 評 | 39 |
| | | 助成対象者 | | 43 |
| | 実践系 | 総 | 評 | 47 |
| | | 助成対象者 | | 51 |
| | 応募・採 | 択 | 状況 | 53 |
| 2021年度 | 笹川科学研究奨励賞 | 概 | 要 | 55 |
| | | 受賞者 | | 57 |

* 本一覧は日本科学協会のホームページに掲載いたします。

2022 年度笹川科学研究助成総評

笹川科学研究助成事業委員会委員長

笹川科学研究助成は、当時は助成団体への研究費申請のできなかった大学院生や研究生といった若手研究者を対象に 1988 年にスタートし、今回で 35 回目を迎えました。今では文部科学省の科学研究費（日本学術振興会が所掌）に大学院生を対象とする申請枠ができ、また、民間の一部でも大学院生向けの研究支援事業が進められるようになりました。しかし、大学院の修士課程や博士前期課程で申請できるのは、本助成以外は未だ稀です。本助成がこうした社会の動きのきっかけになっているとすれば、嬉しい限りです。

今年度の申請は 1,133 件で、研究費の申請総額は 10 億 826 万円に上りました。厳正な審査を経て学術研究部門と実践研究部門を合わせて 332 件（採択率 29.3%）が採択されました。学術研究部門の採択者 310 件の 76.5%は大学院生で、残りは 35 歳以下の非常勤または任期付き雇用研究者の方々です。学術研究部門では、女性研究者が 32.9%、留学生及び外国籍研究者が 10.3%でした。こうした傾向は、このところあまり変わっていません。今年度で、笹川科学研究助成の助成総数は 10,590 件になりました。今や、国内で活躍しているすべての年齢層で助成研究者が活躍していて、大学や研究所の研究者のおよそ 10 人に 1 人が OB・OG といっても過言ではありません。35 年間の助成研究費は、総額が約 63 億円にのぼります。これはひとえに日本財団のご支援によるものです。

1997 年には、海洋・船舶科学分野の支援強化を目指して学術研究部門に海洋・船舶科学系を新設し、2018 年度まで 22 年間募集しました。しかし、分野的な偏りが感じられ、広範囲な海の研究分野を支援するため、2019 年度に海洋・船舶科学系を廃止し、代わりに学術研究部門のすべての系に「海に関係する研究」のチェック欄を設けて募集したところ、従来の 2 倍以上の申請があり、研究分野も大きく拡大しました。以来、学術研究部門の全分野で「海に関係する研究」を募集しています。

学生・契約研究者など、現行制度では研究助成の受けがたい身分の若手研究者に本事業はかなり周知されてきました。ただ、採択課題を見ると若手研究者に期待される萌芽性・新規性・独創性のある研究が必ずしも多くありません。昨今、指摘されるような「日本全体としての活力低下」があるとするれば、萌芽性・新規性・独創性のある研究自体の全国的な減少が懸念されます。加えて、学術研究部門の申請の 50.1%が生物系で、複合系、数物・工学系、化学系の申請にも生物課題が含まれることを考えると、全体の研究申請に占める生物分野の割合は極めて高く、年々この傾向が強くなっています。この状況は本研究助成

事業だけでなく、国内外の他の研究助成事業でも同じと聞きます。

それぞれの専門分野の申請傾向については、分野責任者と各選考委員長の総評を見ていただくとして、全体に共通している点を三つ上げます。一つは、多くの研究が先鋭化していることです。研究成果を上げる点では素晴らしいことですが、ともするとその研究の位置づけを見失う危険があります。是非、少し引いた位置から自分の研究を眺める余裕を持っていただければと考えます。二つは、様々な科学・技術が開発された結果、無理矢理最新技術を使おうとする研究です。研究は必ずしも最新技術を使うことではありません。三つは、それぞれの研究分野、あるいは科学・技術全般を俯瞰した視点、または物事の考え方を考えることにつながりそうな研究課題が余り見当たらないことです。

実践研究部門では、2013年度から学芸員・司書等が行う資料の調査・研究に加え、学校・NPOなどに所属する人たちが行う調査・研究を支援する問題解決型研究の二つの窓口で申請を受け付けています。2022年度の実践研究の申請は、学芸員等研究 27 件、問題解決型 43 件で、合計 70 件ありました。

2020年の年明けから、世界的に新型コロナウイルス（COVID-19）が流行し、国内外での現地調査をはじめとして実験室やキャンパスへの出入りが大幅に制限されるなど、研究活動が著しい影響を受けています。審査では、制約された条件下での申請者の工夫に注目しました。

研究助成を受けられた方には、翌年 2 月に研究完了報告を提出していただき、それらをもとにして各選考委員会で研究評価を行います。2007 年度から、優秀な成果を上げた研究者には研究奨励賞が授与されています。学術研究部門の 6 系（生物系は生理・発生・分子・生花・遺伝などと分類・生態・農・水産などの 2 分野）と「海に関係する研究」、ならびに実践研究部門からそれぞれ 2 人ずつ合計 16 名が選ばれ、研究奨励の会で研究発表をしていただき、賞状と副賞が授与されます。今年度は、研究奨励の会を 2022 年 4 月 22 日（金）に ANA インターコンチネンタルホテル東京で予定しておりましたが、残念ながら COVID-19 の流行で昨年度に引き続きやむなく中止といたしました。代わりに、昨年度と同様に Web で動画発表していただく準備を進めています。

さらに、日本で活躍している笹川科学研究助成者（OB・OG）には助成後もいくつかの支援を行っています。その一は、2001 年度に始めた海外での研究発表の旅費と参加費用を支援する海外発表促進助成制度で、毎年 58～83 件に上ります。しかし、直近の 2 年間は COVID-19 の流行でほとんどの国際研究集会が中止され、ごく一部はオンライン開催となり、その参加費を支援しました。今後も、引き続いてオンラインを含め、国際集会での研究発

表へのきめ細かな支援を進めてまいります。2021年度には海外発表促進助成制度創設20周年を迎え、報告書「研究は海を越え、20年の軌跡」(A4版64頁)をまとめて出版しました。その二は、OB・OGと企業との関係の構築のための企業関係者を対象としたOB・OGの研究発表会の開催で、第1回を2019年9月に開催し、OB・OGと企業関係者の双方から好評をいただきました。以来、COVID-19の影響で研究発表会は開催できていませんが、今後も引き続いて企画していく予定です。その三は、OB・OGが進めている研究を社会に広く知ってもらうため、OB・OGを出版社に紹介して科学一般書として出版する支援です。松田英子東洋大学社会学部教授著の「夢と読み解く心理学」(ディスカヴァー携書)が2021年8月に出版されました。以上の支援を充実させていくとともに、その他の支援も随時進めてまいります。

このように笹川科学研究助成事業は、日本国内で活躍する優れた若手研究者を発掘して長い目で支援し、日本をはじめとして世界の将来の科学・技術の発展に寄与してまいります。

重点テーマ：「海に関する研究」 総評

海洋関連研究責任者

ここでは、各系への申請の中で重点分野として「海に関する研究」にチェックがされた申請書の評価を行いました。そのこともあって、様々な分野から多くの提案がありました。4年生と博士前期課程の申請者が全体の約60%、博士後期課程も加えると80%を超しており、昨年度よりも若干学生からの申請が多くなっていました。今後も、多様な機関から意欲的な申請を期待しています。

1. 全体的な総評

- 今回の申請書の多くは、比較的わかりやすく書かれており、順位を付けて採択するのが困難でした。しかし逆に言えば、それだけ申請書の書き方とその研究内容の素晴らしさが問われたこととなります。
- 申請の中には、そもそも海洋分野との関連性が薄いものがあり、これらは選外としました。重点テーマ「海に関する研究」に申請するのであれば、海とどのように関わりがあるのかを申請書にしっかりと記述する必要があります。
- 文章の書き方に問題のある申請書が散見されました。日本人であるからといって日本語で上手に自分の意志が伝わる文章を誰もが書けるのかというと、そうではありません。日々どれだけの文章に触れてどれだけの文章を書いているかが、研究論文（実験ノートの箇条書きのことではありません）やこのような申請書に反映されます。COVID-19の影響で日々の活動の制限を受けることが多いですが、このようなときこそ腰を下ろしてじっくりと知的活動に勤しむよい機会だと捉えることもできます。後ろ向きになることなく自己研鑽を重ねて欲しいと願っています。
- 評価者は忙しい中多くの申請書を読むために、一つ一つの申請書にかけられる時間は限られています。その中で申請書から「発想の萌芽性・独創性」「計画の実現性および合理性」「分野の発展への貢献度」が、しっかりとわかりやすく書かれているものを抽出することになります。そのため、申請者は評価者の立場にたって、申請書を記述することが求められます。
- 学部生と大学院生の申請が約8割を占めましたが、博士研究員や若手教員のものと比べても見劣りしない内容でした。採択・選外を決める差は僅かで、応募者自らが研究計画の立案に貢献したことを読み取れる申請書を高く評価しました。

- 研究テーマや研究手法に何らかの新規性が認められる研究計画が多く、それらの新しい試みから研究の面白さに繋がっていくことが期待できました。その中で採択された課題では、新規性のある試みを研究計画の中でどのように進めていくかが具体的に記されており、研究内容から期待される成果への繋がりがイメージできるものになっていました。一方、選外となった課題では、研究目的が一般的な背景説明に多くを費やされ、当該研究の目的が十分に絞られていなかったり、具体的に何をするのか、研究計画が明瞭でなかったり、あるいは、そこからどのような結果を期待するのかがはっきりしないなど、一連の研究計画と、期待される成果との繋がりがイメージしづらいものが多くなっていました。例えば、この計画の実施を他の人に依頼するとしたとき、この記述内容で思った通りのデータや解析結果が得られるかどうか、という検討をするのも、申請書の改善に役立つかもしれません。
- 自身の研究の新規性を謳うあまり、研究の歴史や周辺の取り組みのサーベイが疎かになっているような課題も見受けられました。申請書を書くにあたっては、過去の関連の研究に関してしっかりと調べて、その流れをわかりやすく記述する必要があります。自身の研究にのめり込んで一生懸命に研究をすることは大変素晴らしいことですが、独りよがりにならないように気を付けて欲しいと思いました。
- 目的のためにデータを集めることは必要ですが、研究はそれで終わりではありません。目的の達成のために、取得したデータをどのように組み立てていくかの記述も必要です。
- 以前本助成を受けた申請者が再び応募している場合も見受けられます。再び応募することは悪いことではありませんが、その場合は前回の助成で何がわかったのか、今回の申請はそれをどう発展させるかなどの記述が必要です。
- 全体に、国内・海外調査の研究計画、予算計上に関して、コロナ禍で実施ができなくなった場合の代替措置に関する検討が必ずしも十分ではなかったものが散見されました。
- 研究経費の支出計画が助成額の上限を大幅に超えている申請書は、研究の遂行が可能かどうかを判断できません。助成額に応じた研究計画を立てて申請書を作成することが必要です。また論文発表や学会発表の費用が、研究費の中であまり大きな割合を占めることは、この研究助成の趣旨と異なるため望ましくありません。また、高額な機器の購入に研究費のほとんどをあてることも、あまり好ましくありません。
- 研究は「発想・計画作成」→「研究費獲得」→「フィールド調査・試料採取」→「分析・解析」→「成果をまとめて誌上発表」と進んで一巡です。きちんと誌上発表を行い、発展した次の一巡に進んでいただければと思います。

2. 個別の分野に関する総評

- これまで研究されていないというだけの理由で、すでに定石となっている手法を新たな生物群に適用することは、課題としてのインパクトに欠けます。異なる視点や新たな発想で魅力的な研究のゴールを設定していただければと思います。(海洋生物分野)
- 海洋環境を守るために、汚染物質を除去したり、生分解性のプラスチックを開発する、あるいは海水や海洋生物から有用な物質を抽出する等の技術的な申請も多く見られました。このような申請書の場合、化学的な合成・抽出技術など評価者が必ずしも専門でない分野の場合が多くなります。そのため、その技術にどのような新規性があり、これまでの技術よりどのように優れているのかを、わかりやすく記述する必要があります。また、生分解性プラスチックの開発の申請に関しては、「海に関係する研究」として申請するのであれば、新しく生産される物質が海の中で実際どのように挙動するかという研究内容が含まれることが望まれます。(海洋生物・海洋環境分野)
- 全体的によく書けている申請書が多く、科学目標や研究遂行への研究計画のレベルも高くなっていったため、採択課題を選考するのに大変困りました。選外となった案件の中にも、採択となったものに匹敵する良いテーマがありました。年齢が低い方々の提案書の場合には、意気込みを書いても加算される傾向がありますが、年齢が高い方々の場合には計画とともに実績が問われます。この点が、年長者に対する採点に際して少し厳しくなった理由かもしれません。他分野の人にテーマの魅力を伝達する能力は年々レベルアップしています。自分の研究のトピックスを過不足なく伝えられるスキルを磨くことも重要となってきています。(地球化学・地学・海洋環境分野)
- 純粋に海洋物理学に特化した研究より、生態系とのつながりなど、様々な学際的な視野を持った研究テーマが多かったことは、昨今の学際的研究の広がりを反映したものと思われました。例えば、乱流強度とプランクトンの画像とのほぼ同時観測など、計測時から分野を超えたアプローチの試みで、新しい方向性が示されていると思いました。(海洋物理関連分野)
- 審査した申請は全体的には、一つ目として地球環境問題に関連して海洋再生可能エネルギー利用に関する技術と地球温暖化ガス回収や削減に関する技術、二つ目は海中ロボット群に関する研究、三つ目は生物の流体力学的特性や水中音響特性に関するものでした。採択候補となったものの中にも、従来の研究などに関する事前調査を背景にして課題設定が行われ、着実に成果が期待される反面、独創性、萌芽性が多少弱められてしまったものが見られました。一方、選に漏れたものには独創性、萌芽性に関して着眼に優れ、関連分野への貢献の可能性を期待させるものの、研究目標の設定や研究手順への展開が十分でなかったものが少なからず見られました。(海洋工学分野)

- 現在トピックスであるマイクロプラスチック問題を挙げている研究もありましたが、マイクロプラスチックがどのようなものかを知るための研究に偏っているのではないかと思われました。もっとマイクロプラスチックの源からこれを取り除く研究にも視点を当ててほしいと感じました。(海洋工学分野)
- 船舶の設計・建造および運航に関する研究テーマは多くありませんでした。このことは船舶の建造船舶が世界第3位、船舶の運航隻数が世界第2位の我が国ではあるものの、研究者の意欲が低下していると思われるなりません。船舶分野では環境に関する課題やそれともなう新たな船型開発あるいは自動運行船に関する課題への研究が必要とされていますので、是非ともこの研究助成に応募していただき、これらの諸課題に挑戦していただければと感じる次第です。(海洋・船舶科学系分野)
- 生物に関連した研究助成申請も多く見られ、それらはかなり細かな研究に対する助成を申請していると感じられました。その内容は一見、高いレベルを有しているように見えたが、残念ながらこれらから海の未来を変えるような大志を持った研究はあまり多くはなかったと感じました。引き続き、海洋・海事分野に視点を置いて、大胆な目標を唱え、それに向かって動き出す研究を行ってほしいと思います。(海洋・海事分野)
- 今年度は、歴史、法制、環境、ジェンダー、社会実践といった幅広い申請案件があり、特に後者2件は今回の特徴とも言えるものでした。いずれの申請内容も新規性、独創性、萌芽性に富むものでありましたが、現在の状況を対象とした研究申請がなかったのはいささか残念でした。この点について次回以降に期待したいと思います。また今後、さらに申請数が増加していくことにも大いに期待します。(人文・社会科学分野)

2022 年度人文・社会系総評

人文・社会系選考委員会委員長

<時代状況を受けた総評>

日本科学協会の笹川科学研究助成に、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという時代状況のなかでも、若手研究者による多数の申請が寄せられたことは、今後の日本の学問研究の興隆に寄与するものと、おおいに期待するものです。

日本のみならず世界全体でのコロナ禍の趨勢とそれによる規制の影響を受けて、今年の申請の傾向としては、移動を伴う現地調査や対面的なインタビューを必要とする研究計画がやや減少したこと、日本の近年の時代状況を受けて自閉症関連や心・精神をテーマとする申請が増えたことなどが、挙げられます。

また、研究の目標をしっかりと設定し、そこに向けたロードマップを明確に示した研究が目立ち、研究計画の作成に関する作法という意味で手堅い研究が多かったことは、評価できます。ただその反面、発想の萌芽性・独創性という面において、若手研究者らしい冒険心に富んだ立論が少なく、小さくまとまった研究が少なくなかったという感想を持ちます。人文・社会系の若手研究という点を重視するならば、よりユニークで挑戦的な枠組みをどのように構築していくかが課題と言え、今後の申請者に期待するものです。

コロナ禍における研究の在り方を考える必要があり、特に海外での調査が必要な研究では、研究に柔軟性を持たせておかないと成立しない場合があります。その調査研究の基底を成す行動の緊急発令的な規制を、代替的な、あるいは、同類を成すような調査対象を用意するなど、機転を利かした工夫で超えていこうとする申請もありました。新規性、独創性ある研究計画を提案するには、毎日の地道な研究生活の積み重ねが不可欠です。また、時間、予算、移動制限をはじめとする様々な制約がある中では、実現可能性の高い研究の実施内容、具体的な研究方法を熟考し選択することが肝要です。

このような困難な時期だからこそ、今一度、研究の実施内容とともに研究目的とその社会的意義を再確認する必要があるといえます。その独自性の説明が専門分野に閉じすぎ微細な説明に限られ、より広い社会性からの説得力や普遍性の付加が求められるなど、いくつか気になる点が出てきたのも事実です。そこで、以下に 2022 年度申請をめぐって、感想と留意点を記します。

＜個別の留意点＞

1 専門説明と普遍説明

専門性が十分に深められる研究である必要とともに、その意義が多くの人に理解できるように書く必要があります。研究のより広い分野での意義や社会性・普遍性の広がりを意識して、専門の異なる評価者にも理解できるように、独自性や意義をわかりやすく説明する工夫が必要です。心理学や人間科学分野の申請に、この両面で説得力を持たせようとする、図表使用の工夫や初期理解を企図する詳細説明の努力が多くなされてきているのは、研究の重要性を説くのに良い説明だと、評価できます。一層の両面努力を期待したいと思います。

2 申請分野

上記のような、専門化を深める説明と広い問題関心者にも伝える努力の必要性は、申請分野に齟齬がないか、いま一度、申請者が再考する必要性と結びついています。これは、人間科学における方法論が、人文社会分野と言いながら自然科学的であり、意味論としての解釈を多く包含する人文・社会科学世界に説明する要を迫られることと軌を一にします。この距離を埋める努力が、近年、心理学や実験を方法論とする人間科学分野からの申請に多く認められてきていることは、望ましいことだと考えています。一方、一部の申請には、明らかに学術世界で一般に承認される「人文・社会の範疇」を逸脱する研究が見られ、しかもそれが分業を集成した自然科学系の大規模共同研究や研究室全体の資金調達を目的としたと疑われる申請が見られたことは遺憾です。自然科学と人文社会科学との距離を埋める説明努力を一層おこなうか、申請分野を変えて申請したほうがよいのではないかと考えられる申請が一定数ありました。熟慮と対応を期待したいと思います。

3 独自性と新規性

独自性・新規性に充ちた問題意識を堅実に深めていく研究を求めています。その意味で、今まで研究の多かったメジャーに構えた「目立つ」大対象ではなく、例えば、「離島社会における民俗芸能の実践に関する人類学的研究」、「エチオピア正教徒の食実践をめぐるローカルな健やかさの民族誌的研究」、「内蒙古における濃厚・牧畜の祈願の伝承の研究」、「現代フランス陶芸における炆器を中心とした日本陶磁器受容史」、「日常の都市遺産マネジメント：シンガポールにおける都市景観と保護政策に関する研究」など、ローカルな民俗文化、芸術文化分野に着目した独創性ある研究が認められました。日常的であり周辺化された対象に見えても、そこに人間の普遍的な在り方を求める一ひねり入れた、しかも、地道な研究が出てきたことは喜ばしいことです。派手に見えがちなメディア分野でも、「1950年代のイギリスにおけるメディア文化政策」や「戦間期中国における外国語新聞と国際関係」など堅実な調査手続きを伴ったメディア文化史研究もこの分野に貢献するものと高い信頼を得ました。また、福祉学と心理学をつなぐ研究が多く現れ、福祉の枢要性という時代の要請を着実に捉えた研究等に良い研究が増えているのは、新規性ある実践的な切り込みの現れと理

解しています。この分野以外でも、今年は、歴史学、政治学、経営学、教育学、社会学、考古学、言語学等の分野においても、新規性や学際性の高い良い研究が認められました。

当該研究分野で時代の風潮を受けたキーワードを多用しただけの申請は評価が低くなりますし、逆に古典的な枠組みから一歩も踏み出せない申請も評価が低くなります。視点を変えて切り込むなど、古くからあるテーマでも自分の研究観点から再定置し、説得力ある新規性を発揮した申請もありました。

4 研究計画のマクロビジョン・総合研究達成と単年度申請

研究計画について、自分の研究としてスケールの大きい研究や比較研究を持っているのですが、本助成のような単年度申請では、焦点を絞る方法も説得力を持ちます。今年では、時代思潮を抽出する全体研究のビジョンを示したのち、単年度に実現可能なテーマに集中する工夫を加えるなど、テーマを明確にした研究も説得力ある申請となります。その研究の明確性を前面化するためには、「研究の実施内容」欄に、研究内容そのものを列記するだけでなく、研究を実施するにあたっての方法（調査、資料収集、実験、インタビュー、アンケート調査など）を研究内容に沿って具体的に書くことが重要です。

5 予算の立て方と研究計画—図書費、旅費、謝金、学会費、論文掲載費

支出計画では、図書費を漠然と計上している申請が少なくありません。図書館などで閲覧可能と思われる書籍を購入しようとする申請は、評価が低くなります。そこでしか入手できない地方出版物や特殊な出版物など、その書名を明示するなどして、図書資料の購入の必要性を説いて欲しいと思います。アルバイトを使うなど謝金の使用についても、それが本当に必要な助力か十分にチェックされることをお勧めします。基本的に、若手研究者が「自ら汗をかく」研究態度が求められます。その点からも、調査対象者に対する謝金では、一般に謝金はその意味が不明瞭になりやすく、「手土産代」と解されないよう注意深く計上する必要があります。研究方法論上、実質的な現地調査を中心に据えるにしても、往復の旅費交通費だけ突出した料金で申請し、他の研究項目に資する出費を計上していないものも、実現可能性が低く評価されます。調査を外部発注する費用だけに巨額の費用が計上されているのも、好ましくありません。書籍の購入、旅費に突出した経費を計上するのも、研究の全体性から見て望ましくなく、研究を支える全体諸項目へのバランスある経費計画が望まれます。論文掲載料が10万円以上もする雑誌に投稿料が計上されるのも、論文掲載が研究のアウトプットに属する点から見て、好ましくありません。下に示す学会費も同様で、研究内容を構成し肉付ける実質的な調査や研究活動への支出が基本となります。また、研究計画はまとめて説得力があるのに、計画と研究経費の合理的関連性が乏しい申請は、説得力を欠きます。

6 予算の立て方—機器、学会費

一部に「初めに研究費ありき」で、研究の学問的意義を図りかねるものも散見されました。機器の購入は、基本的に研究室や大学で用意してほしいものと考えています。支出計画を作るときには、調査や研究行為の頻度や場所、所在地、個数、機器の使用、そこに行くことの必要性など、研究計画をもう一度見直し、研究計画と支出計画に整合性があるかを確認してください。支出計画で、もう一つ問題とするのは、学会参加費や学会年会費に当てる費用支出です。複数学会への参加で著しく多い学会旅費を計上している申請がありました。学会参加は、発表するとしてもそれは研究のアウトプット行為であり、「一般的な」情報収集の行動であり、研究そのものを構成し創り出す主たる活動や調査ではありません。笹川科学研究助成の人文・社会系の選考委員会では、学会参加費や学会年会費などは、投稿料も含めて、国内・海外を問わず、研究調査の支出項目としては優先度が低いものと考えています。ここでは多くの場合、研究計画に書かれている研究を深める内容と支出が一致しておらず、厳しい採点になるのは避けられません。パソコンソフトの購入も研究主題からすれば、周辺的な支出と判断します。研究内容の充実・発展そのものを形作る中心的で不可欠の研究活動への支出を堅実に組み立てていかれることをお薦めします。

以上の点を留意され、学問的意欲にみち誠実に独創的な研究申請を今後も行っていきたいと期待します。さらに、この世界的病疫による生活様式の変化に注目していく必要があります。自然災害や地球環境の変化、さらには、新型コロナ感染症のパンデミックによるリスク増大により、現在、私達のライフスタイルには様々な変容が求められています。このような新時代に対応した、新たな研究課題の発掘・展開にも期待したいと思います。

〔人文・社会系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|-------------|----|--------|--------------------------------------|------------|--|---------|
| 宮城県 | 2022-1002 | 曾 小蘭 | 女 | 中国 | 東北大学大学院国際文化研究科国際文化研究専攻 | 博士後期課程4年 | 中国近代における文学潮流に関する先駆的研究ー創造社における転向問題の心理学的解明を目指してー | 600,000 |
| | 2022-1030 | 宋 歌 | 女 | 中国 | 東北大学大学院文学研究科総合人間学専攻 | 博士後期課程3年 | 対人関係言語標識の音声的実現の神経基盤：中国語語気助詞の神経言語学的検討 | 200,000 |
| 茨城県 | 2022-1031 | 宮崎 星 | 女 | | 筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群看護科学学位プログラム | 博士前期課程2年 | パンデミック禍における保健所保健師の苦悩と支援策の探究ー個人・組織のレジリエンスを高めるためにー | 210,000 |
| | 2022-1017 | 内田 昌太郎 | | | 筑波大学大学院人間総合科学研究群世界遺産学学位プログラム | 博士後期課程3年 | 作品の視点による茶道史の再検討ー瀬戸茶入の唐物模倣に着目してー | 650,000 |
| | 2022-1024 | 原 遼平 | | | 筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史・人類学専攻 | 一貫制博士課程5年 | 日記から見た明治期庶民の旅行行動と時間意識 | 450,000 |
| 東京都 | 2022-1032 | 山本 翔平 | | | 一橋大学経営管理研究科 | 特任講師 | 無科学学習サイト大規模フィールド実験でのピア効果による学習時間と学習定着の促進 | 550,000 |
| | 2022-1028 | 早田 寛 | | | 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻 | 博士課程2年 | 現代中国の対外経済政策をめぐる地方政治：重層的な政治構造に着目して | 200,000 |
| | 2022-1014 | 林 小百合 | 女 | | 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部 | リサーチフェロー | 社会的報酬効果に基づく注意欠如・多動症の病態解明：中核症状と併存症の多様性を含めた検討 | 600,000 |
| | 2022-1027 | 和田 大知 | | | 早稲田大学大学院教育学研究科教科教育専攻 | 博士後期課程5年 | 清末期におけるダライラマ13世の対ロシア外交と内陸アジアにおける「チベット仏教世界」の相関 | 350,000 |
| | 2022-1021 | 染谷 莉奈子 | 女 | | 中央大学大学院文学研究科社会学専攻 | 博士後期課程5年 | 地方都市における重中度知的障害者の「自立生活」に関する社会学的研究ー母親のかかわりに着目して | 400,000 |
| | 2022-1022 | 古谷 悠真 | | | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋管理政策学専攻 | 博士前期課程2年 | 近代日本における海員養成ー日本海員救済会による普通海員養成の実態および歴史的役割ー | 430,000 |
| | 2022-1025 | 蒙古 貞夫 | | | 東京学芸大学教育学部 | 研究員 | 内蒙古における農耕・牧畜の祈願の伝承の研究ーモンゴル民間芸能者の祈りの実態と特質の解明を中心にー | 350,000 |
| | 2022-1011 | 井本 葵 | 女 | | 東京工業大学大学院環境・社会理工学院建築学系建築学コース | 博士後期課程1年 | 京都の町家にまつわる事物連関と近代化による変化 | 600,000 |
| | 2022-1003 | 菊池 望 | | | 東京国立博物館 | アソシエイトフェロー | 青銅器生産の遠隔地域間交流からみた弥生時代中期の社会構造 | 350,000 |
| | 2022-1019 | 松本 祐生子 | 女 | | 東京大学大学院人文社会科学系研究科欧米系文化研究専攻西洋史学専門分野 | 博士課程3年 | 独ソ戦と戦後のソ連における人の移動：レニングラードの祭典に着目して | 650,000 |
| | 2022-1020 | Lee Kah Hui | 女 | シンガポール | 東京大学大学院人文社会科学系研究科文化資源学専攻 | 博士後期課程2年 | 日常の都市遺産マネジメント：シンガポールにおける都市景観と保護政策に関する研究 | 350,000 |
| | 2022-1012 | 梶西 由記子 | 女 | | 東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻 | 博士後期課程2年 | 17世紀オランダ絵画に見る芸術と科学：静物画に描かれた頭蓋骨の解剖学的アプローチによる画像分析 | 650,000 |
| | 2022-1004 | 野田 昇太 | | | 武蔵野大学認知行動療法研究所 | 客員研究員 | 社交不安症におけるマインドフルネスと認知行動療法を併用した高強度プログラムの有効性とメカニズムの解明 | 650,000 |
| 新潟県 | 2022-1013 | 青木 要祐 | | | 新潟大学人文社会科学系 | 助教 | 旧石器ー縄文時代移行期の津軽海峡を越えた人類集団の接触ー黒曜石原産地分析を中心にー | 600,000 |
| 愛知県 | 2022-1029 | 川村 潤子 | 女 | | 名古屋大学大学院人文学研究科文化動態学コース | 博士後期課程3年 | 中間層ニューカマーとしての中華料理人の移民実態と展望ー海を渡った中国人のネットワーク形成の視点から | 490,000 |

〔人文・社会系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|-------|----|----|-----------------------------------|-----------|--|---------|
| 京都府 | 2022-1009 | 谷 雪妮 | 女 | 中国 | 京都大学 | 非常勤講師 | 戦間期中国における外国語新聞と国際関係－多言語的な言論空間に注目して | 350,000 |
| | 2022-1026 | 中村 融子 | 女 | | 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻 | 一貫制博士課程5年 | 現代フランス陶芸における炆器を中心とした日本陶磁受容史：グローバルサウス時代の海外日本像研究に向けて | 750,000 |
| | 2022-1018 | 上村 知春 | 女 | | 国立民族学博物館 | 外来研究員 | エチオピア正教徒の食実践をめぐるローカルな健やかさの民族誌的探究 | 650,000 |
| | 2022-1001 | 照井 敬生 | | | 同志社大学創造経済研究センター | 研究員 | 1950年代イギリスにおけるメディア文化政策の研究：映画・テレビにおける公民連携に着目して | 600,000 |
| 兵庫県 | 2022-1006 | 荒木 真歩 | 女 | | 神戸大学大学院国際文化学研究科文化相関専攻 | 博士後期課程4年 | 離島社会における民俗芸能の実践に関する人類学的研究－薩隅諸島の人々の生活環境と島との関わりから | 850,000 |
| 鳥取県 | 2022-1016 | 遠山 裕基 | | | 鳥取大学大学院連合農学研究科生産環境科学専攻 | 博士後期課程2年 | 東南アジアにおける多様な担い手を包摂した稲作システム：タイの組織化政策とコミュニティの関係性を事例に | 750,000 |
| 広島県 | 2022-1007 | 北川 涼太 | | | 広島大学大学院人間社会科学研究所人文学専攻 | 博士後期課程3年 | 20世紀初頭のイギリス海軍改革における技術者の位置づけ | 740,000 |
| 熊本県 | 2022-1023 | 坂井 華海 | 女 | | 熊本大学大学院自然科学教育部工学専攻社会環境マネジメントコース | 博士後期課程1年 | 民間による国際協力の可能性の検証 | 600,000 |
| | 2022-1005 | 飯島 力 | | | 熊本大学大学院人文社会科学研究所附属国際人文社会科学研究所センター | 特任助教 | 魚籃観音像から捉える御所浦島漁師の水俣病経験－水俣病研究の人類学的展開に向けて | 800,000 |
| 沖縄県 | 2022-1010 | 胡 一超 | | 中国 | 沖縄県立芸術大学大学院比較芸術学研究領域 | 博士後期課程4年 | 19世紀から20世紀初頭の日本・中国・欧州における陶磁貿易の研究－海上輸送の変革に焦点を当てて－ | 760,000 |

2022 年度数物・工学系総評

数物・工学系選考委員会副委員長

1. 全体の印象

数物・工学系分野は、大まかには数学、宇宙・地球惑星科学、理論物理学、物性物理科学・工学、情報科学・工学、建築学・都市工学や土木工学、環境科学・工学という極めて広範囲をカバーしています。申請されたものはこれらに当てはまる典型的のものに加えて、これが複合的に組み込まれた総合科学技術工学とでも呼べるようなものにまで及んでいます。

評価にあたった全体的な印象としては、レベルの高い研究課題が多く、萌芽性、新規性、独創性の高い研究が目につきました。

申請者（申請時）は、学部4年生、大学院博士前期課程および後期課程、博士研究員、助教に跨っていますが、大学院生の申請者が圧倒的に多いのが特徴です。

博士前期課程・後期課程で応募された方の中には、壮大なテーマをかかげられている場合も多く、1年間の申請年度で解明しようとするのを明記する必要があります。副題を添えるのも良いのかもしれませんが。

この研究助成は、研究室を支援するものでなく、研究者個人の研究を支援するものです。所属する研究室のプロジェクトの一環として実施している内容であっても、申請された研究内容は独自性を明確に示し、単年度の期間内でどこまで明らかにするのかを具体的に示してほしいと思います。

2. 気になったこと

イ. 近年は、様々なデバイスは、AIに代表される計算技術が利用可能になりました。それらを積極的に活用することは歓迎しますが、それらを用いる必然性が明確であることは必要であると考えられます。計算機も低廉化しました。国内の研究施設には共同利用で活用できる計算機資源もあることを考えますと、より明確な使用目的が記載されていることが求められます。

ロ. 図表を積極的に取り入れた申請書が多くなりました。好ましい傾向だと思いますが、ほとんど図表について説明されていない場合もあり、文章中にも簡潔に書く必要があります。専門用語にも気を配ってください。どちらもコミュニケーションできず、説得力を欠きます。

次は、当該分野を担当された審査委員が感じたことを列挙します。必ずしも全体に当てはまりませんが、応募されるとき参考になればと思います。

- イ. 今回担当した申請課題は素粒子・宇宙物理学及び物性科学・材料科学の分野ですが、その範囲は基礎研究から応用研究まで多様性に富んでいます。素粒子・宇宙物理学の分野では、暗黒物質の研究など未解決の諸問題に果敢に取り組む研究課題が多かった。物性物理学の分野では、最先端の計測技術の開発と新しい物性現象の開拓に取り組む申請課題が多く、材料科学分野では、社会に対する貢献と波及効果に対する意識の強い申請課題が多かった。
- ロ. 本年は、超高エネルギー電子ビーム放射機構の実験的解明など、非常に困難な課題に果敢に挑戦する研究が多く見られました。また、金属酸化物表面の変化の記憶をセンサアレイとするなど、新たな可能性を強く感じさせる研究も多く見られました。数物的な研究では、医療機関の医療資源の的確な配置問題など、現在の社会の要請を十分に意識しつつ理論も深めようとする優れた研究が見られました。
- ハ. ここ数年、土木、都市、建築、環境、エネルギーに関する研究の申請が少なかった。しかし、申請された研究テーマやその内容は、この研究助成にふさわしいものが多く、この研究助成の主旨が行きわたってきたように思います。
- また、申請数の減少は次のような理由が考えられ、むしろ、細分化しつつある科学研究に対して好ましいと言えます。
- たとえば、建築学は総合学とも従来から言われています。研究方法は数物系に属するものであっても、歴史学や経済学、法学など人文系とのかかわりも深い。
- 複合系をはじめ他の系に応募されているのではないかと思います。本助成の分類で対応できているのではないかと考えています。

3. 研究経費について

研究計画はかなり練られており、評価の優劣がつけ難いほどでした。しかし、研究計画に比べて支出計画の記述が大雑把なものが多かったように思います。この助成になぜ申請しなければならないかがわかるように、もう少し詳しい経費の内訳を記す必要があります。

例年のように、今回も研究成果の発表に関する経費の申請が目につきました。英文校正、論文投稿料、国際会議参加費、交通費など数十万円に及んでいる申請もありました。

研究活動には、研究成果の公表も大切なことのひとつです。また、本来研究は1年単位でなく、継続的なものでしょう。申請されたものはすでに進められている研究も含まれていると考えます。しかし、この研究助成の主旨から、研究を進める上で必須な経費であってほしいと思います。当会では本研究助成を受けた若手研究者の研究成果を発表することを支援する制度「海外発表促進助成制度」もあります。研究者のステップアップと国際的な舞台で活躍する研究者に育ってくれることを応援しています。

〔数物・工学系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|--------|----|----|---|----------|--|---------|
| 宮城県 | 2022-2013 | 加藤 剛臣 | | | 東北大学大学院理学研究科 | 博士後期課程2年 | レーザー・極低温ARPESによるカゴメ超伝導体の新奇物性発現機構解明 | 600,000 |
| 山形県 | 2022-2007 | 石井 彩子 | 女 | | 山形大学理学部 | 助教 | 相対論的輻射流体シミュレーションによるガンマ線バースト放射メカニズムの統一的理解 | 600,000 |
| 茨城県 | 2022-2015 | 加賀見 俊介 | | | 筑波大学大学院理工生命情報学術院システム情報工学研究群構造エネルギー工学学位プログラム | 博士前期課程2年 | 気泡と超音波が切り拓く低侵襲がん治療のための数理的・数値的基盤の創成 | 650,000 |
| 千葉県 | 2022-2011 | 奈須田 祐大 | | | 東京理科大学大学院理工学研究科物理学専攻 | 博士後期課程2年 | 超対称量子力学の量子化条件と量子力学における可解性の探究 | 520,000 |
| | 2022-2018 | 伊藤 真理 | 女 | | 東京理科大学理工学部経営工学科 | 特別講師 | 医療資源の効率的な管理手法の開発 | 480,000 |
| 東京都 | 2022-2001 | 高橋 佑徳 | | | 電気通信大学大学院情報理工学研究科機械知能システム学専攻 | 博士後期課程2年 | 航空ロボティクスのための革新的制御手法の開発と北海道での大規模飛行実験による検証 | 700,000 |
| | 2022-2023 | 上原 拓 | | | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋生命資源科学専攻 | 博士前期課程2年 | AI技術を活用したオッター式底びき網の自動制御研究 | 730,000 |
| | 2022-2029 | 殿元 裕介 | | | 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻 | 修士課程2年 | 単結晶ナノワイヤ表面上の分子吸着・脱離現象に基づく分子識別センシング | 280,000 |
| | 2022-2006 | 本田 陽翔 | | | 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻 | 博士後期課程2年 | 化学的情報収集に向けた金属酸化物センサアレイの開発 | 450,000 |
| | 2022-2028 | 関森 祐樹 | | | 東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境学専攻 | 修士課程2年 | 拡張可能な水中音響通信測位を用いた位置推定手法による、自律型海中ロボット群の広域海中作業 | 810,000 |
| | 2022-2017 | 安田 瑠奈 | 女 | | 東京農工大学大学院工学府電子情報工学専攻 | 博士後期課程1年 | スピン偏極気体原子からのスピン移行による固体の剛体回転の検出 | 600,000 |
| 神奈川県 | 2022-2027 | 木下 了磨 | | | 横浜国立大学大学院環境情報学府人工環境専攻 | 博士前期課程2年 | In situ Raman分光法と密度汎関数計算の複合解析による白金族抽出錯体の配位挙動解明 | 600,000 |
| | 2022-2008 | 種市 慎也 | | | 横浜国立大学大学院都市イノベーション学府都市イノベーション専攻 | 博士後期課程2年 | 暑熱環境下の換気を重視した保育施設における環境計画のための乳幼児の生理反応に関する基礎的研究 | 630,000 |
| | 2022-2025 | 大森 文彦 | | | 横浜市立大学グローバル都市協力研究センター | 特任助教 | 都市に近接する遊休港湾空間の利活用に向けた制度史的研究 | 810,000 |
| 富山県 | 2022-2026 | 田村 嘉章 | | | 富山大学大学院理工学教育部ナノ新機能物質科学専攻 | 博士後期課程1年 | 分子座標系における光電子放出のアト秒遅延に関する理論的研究 | 530,000 |
| 石川県 | 2022-2002 | 和田 啓吾 | | | 金沢大学融合学域観光デザイン学類 | 助教 | 低マッハ数モデルにおける火炎面の非断熱的温度分布を考慮した伝搬速度公式の導出 | 390,000 |
| | 2022-2019 | 蜜澤 岳 | | | 石川県立大学大学院生物資源環境学研究科環境科学専攻 | 修士課程1年 | 手取川流砂系における沿岸漂砂の移動把握ー現在と過去の漂砂移動の変化 | 760,000 |
| 愛知県 | 2022-2010 | 伊藤 花恋 | 女 | | 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 | 博士前期課程2年 | 微破壊試験機を用いた歴史的な組積造建造物の強度推定に関する実験的・解析的研究 | 690,000 |
| | 2022-2009 | 李 旭 | 女 | 中国 | 名古屋大学大学院工学院エネルギー理工学専攻 | 博士後期課程1年 | 酸化物準結晶薄膜の創製および構造と物性の解明 | 450,000 |
| 滋賀県 | 2022-2014 | 藤井 康之 | | | 立命館大学大学院情報理工学研究科 | 博士後期課程4年 | 小型水上自律移動センシングデバイスを用いた長期水上環境観測に関する研究 | 650,000 |
| | 2022-2016 | 片岡 拓郎 | | | 立命館大学大学院理工学研究科物理科学科基礎理工学専攻 | 修士課程2年 | 空気中で回転する細い弾性ロッドの形状転移 | 390,000 |
| 大阪府 | 2022-2024 | 岡田 和記 | | | 関西大学大学院理工学研究科総合理工学専攻 | 博士後期課程3年 | 5次元Langevin方程式による超重核領域における核分裂の動力学的研究 | 570,000 |
| | 2022-2021 | 太田 雅人 | | | 大阪大学レーザー科学研究所 | 特任研究員 | 超高エネルギー電子ビーム放射機構の実験的研究 | 650,000 |

〔数物・工学系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|-------------------|----|--------|-------------------------------|----------|--|---------|
| 大阪府 | 2022-2012 | Verdad C. Aguilto | 女 | フィリピン | 大阪大学レーザー科学研究所光量子ビーム科学研究部門 | 特任研究員 | 光励起スピン流による高強度広帯域テラヘルツイメージング光源の開発 | 700,000 |
| | 2022-2005 | Isnaini Rodhiatul | 女 | インドネシア | 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻船舶海洋工学コース | 博士後期課程2年 | 浮体式洋上風車のメンテナンスのための風波将来予測の技術開発 - デジタルツイン技術 - | 810,000 |
| 兵庫県 | 2022-2020 | 高橋 龍之介 | | | 兵庫県立大学大学院物質理学研究科 | 博士後期課程1年 | 元素別に光磁気制御現象の探索を可能とする汎用型実験室装置の開発 | 650,000 |
| 岡山県 | 2022-2004 | 大畑 友紀 | 女 | | 岡山大学大学院環境生命科学研究科環境科学専攻 | 博士後期課程3年 | 価値観クラスターを指標とした「都市構造」と「ライフスタイル」の関連性の検証と新たな都市構造の提案 | 590,000 |
| 山口県 | 2022-2003 | 秦 慎一 | | | 山陽小野田市立山口東京理科大学工学部応用化学科 | 助教 | 高効率な熱発電モジュールを志向したn型有機材料フィルムの調製と物性開拓 | 700,000 |

2022 年度化学系総評

化学系選考委員会委員長

化学系分野は従来から物理化学・無機化学・有機化学・高分子化学・生化学の5分野に分類できる内容の申請が一般的でしたが、最近は様々な新しい研究テーマの申請が見られるようになり、従来の領域をまたがった境界領域のテーマが増えていることに加え、化学と生物の境界領域ならびに医科学分野との関連性が強い研究テーマなども増加する傾向にあります。まず研究申請における全体の傾向ですが、ここ最近の研究テーマや申請内容が多岐にわたるとともにオリジナリティが高く、新物質・新反応・新分析手法開拓など真理の探究を目指した挑戦的な研究申請が多く見られるようになってきました。少し大げさかもしれませんが、21世紀半ば以降の日本の科学技術先導への大きなさきがけを感じられました。そのため、選考は年々難しくなっていますので、厳しい競争の中、本研究助成を受領された方は、今の大きな波に飲み込まれたり、研究室のプロジェクトの一部にならないよう、用途を明確にして活用されることを強く望みます。研究テーマの具体的選定、遂行に加え申請書作成にも、一層の主体性が必要となります。また、研究成果の発信も大切であり、筆頭著者として学術論文に公開し、また国内外の学会などでより一層発表・討論することを期待します。

以下には、[物理化学・無機化学分野]と[有機化学・高分子化学・生化学分野]における応募のより具体的な傾向や選考委員としての助言などについて記述することにします。

[物理化学・無機化学分野]

化学系全体の申請に占める無機化学分野への研究申請は、今年度も依然減少傾向ではありますが、昨年に引き続き今年もそれぞれユニークな研究揃いで、もっと多くの方に助成金を差し上げたいと思ったのですが、紙一重で選外となってしまった方も多いように感じました。研究テーマとしては、新しい化学測定法や環境改善を目指した高機能性触媒の開発、未解明な諸現象の解明およびナノ粒子の結晶面を精密に制御する合成法の研究などレベルの高い申請が複数件認められました。その他、円偏光発光関連のテーマが複数あり、また機械学習の利用など最近の情勢を反映した課題も提案されていて、多くの若い研究者の皆さんの意欲を感じました。所属している研究室の研究テーマを反映した申請になるのはやむを得ないとは思いますが、申請者独自の観点での計画が見えるような申請を期待しています。今年度は、大学院生の方の申請が非常に多かったですが、やはり概して博士後期課程以上の方の申請書は、立派なものが多いように感じます。修士課程の方は先生方や先輩の書類を参考にされるといいと思います。

研究資金の計画についてはあまりに具体性に欠けるものや、研究費の用途に関し、設備な

どの備品類、旅費、または論文の投稿関係などの費用が経費全体に対して著しく高い割合になっている申請が散見されました。このような申請内容では、研究に対する計画の実施に懸念があり、研究内容に対する評価を下げざるを得ないことにつながります。また、申請よりは後の時期でも、採択年度より前に開催される学会への出張費など、助成期間外の費用をあげられますと、評価が低くなりますので気をつけてください。

[有機化学・高分子化学・生化学分野]

有機化学分野のうち、基礎的な分野に相当する有機反応化学・構造化学と人工物の有機機能材料化学に関する領域についても、多様な申請がありました。内容的には、実際に発現させたい性質や機能を念頭におく精密な設計・構築と分子集合体に使われる分子変換反応を開拓しようとする群、高分子化した物質の高次の空間構造の制御を通じた性質の実現を試みようとする群とに大別できるかと思いました。特に反応の研究ではラジカル反応の制御や大きな酸化数の化学種の利用など、副生成物の最少化を図るもの、また光化学的あるいは電気化学的アプローチなど将来に亘る物質循環を見据える姿勢を持つものが目立っていました。

具体的な研究課題の大部分は、申請者が活動している研究室で行われてきたテーマの継続ですが、その中に将来を見据える若手の感覚が透かし見えるように思います。足元を見据えた構造や反応の基盤的な探求は、派手なものにはなりにくいし研究費を得にくいでしょうが地球の将来には重要な知見を与えるものですので、ぜひこれからも若手の皆さんが提案申請してくれることを期待します。

コロナ禍の逆境にもかかわらず、準備状況が良く既に得られた成果を基に、綿密に計画された申請が多く見られました。また、そのような社会状況を反映したためか、感染症に対する診断法や治療を見据えた研究提案も複数件ありました。一方、SDGs を念頭にした環境、省エネルギーに繋がる課題についてはあまり多くはありませんでした。もう少しこのような観点からの申請が増えると良いかと思えます。

〔化学系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|-----------|-----------|---------------|--------|-----|--|-----------------|--|----------------------------|
| 北海道 | 2022-3005 | FENG CHAOHUI | 女 | 中国 | 北見工業大学応用化学部地域未来デザイン工学科バイオ食品工学コース | 助教 | 廃蜜柑皮から抽出したフラボノイドを添加したソーセージのハイパースペクトルイメージングを用いた品質評価 | 670,000 |
| | 2022-3038 | 武山 光樹 | | | 北見工業大学大学院工学部地球環境工学科応用化学プログラム | 博士前期課程1年 | ペプチド型有機触媒を用いるマイケル付加反応の開発 | 550,000 |
| 茨城県 | 2022-3002 | 吉田 悠太 | | | 茨城大学農学部食生命科学科 | 助教 | 塩味嗜好性を制御する脳神経回路の解明 | 740,000 |
| | 2022-3003 | 宮川 晃尚 | | | 筑波大学数理物質系 | 助教 | 誘導電流計測に基づく粒子表面反応分子の微量計測法の開発 | 740,000 |
| | 2022-3007 | 甲田 優太 | | | 筑波大学数理物質系物質工学域 | 助教 | 機能不全に陥った代謝の人為的矯正を可能にするアミノ酸と短鎖脂肪酸基盤高分子自己組織化薬の開発 | 670,000 |
| 千葉県 | 2022-3015 | 張 米 | 女 | 中国 | 東邦大学大学院薬学部薬学研究科医療薬学専攻 | 博士課程2年 | 未開拓天然資源であるアオガンピ属植物由来の生物活性ジテルペノイドに関する成分研究 | 670,000 |
| | 2022-3045 | 佐山 奈緒 | 女 | | 東邦大学大学院理学研究科化学専攻 | 博士前期課程1年 | グリーン・ケミストリーを意識した、次期学習指導要領に対応する高校化学の反応速度の実験教材の開発 | 520,000 |
| 東京都 | 2022-3037 | 田中 希実子 | 女 | | お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻 | 修士課程2年 | 芳香族スクアルアミドの立体特性の解析と新規機能性分子の創製 | 610,000 |
| | 2022-3010 | 梅野 智大 | | | 昭和薬科大学薬学部 | 特任助教 | ペプチド合成のための環境調和型アミン検出法の開発 | 590,000 |
| | 2022-3016 | 田代 啓悟 | | | 成蹊大学理工学部理工学科応用化学専攻 | 助教 | グリーンエネルギー社会を指向した触媒の表面制御による二酸化炭素の炭化水素化反応の高効率化 | 670,000 |
| | 2022-3018 | 内田 昇吾 | | | 東京工業大学大学院環境・社会理工学院融合理工学系原子核工学コース | 修士課程2年 | 従来法とは逆の不純物除去を基本コンセプトとする炭酸系水溶液中での使用済み核燃料再処理技術基盤研究 | 610,000 |
| | 2022-3011 | 木下 智和 | | | 東京工業大学大学院理学部理学系 | 博士後期課程1年 | 感圧応答化学センサーの創製：細胞系への応用を目指して | 670,000 |
| | 2022-3042 | 佐々木 由比 | 女 | | 東京大学生産技術研究所 | 特任研究員 | 多平衡系の分子自己集合体を用いた多種ドーピング薬剤の検出 | 740,000 |
| | 2022-3035 | 清水 未紀 | 女 | | 東京電機大学大学院先端科学技術研究科物質生命理工学専攻 | 博士後期課程3年 | パラジウム触媒を用いたフルオラスヘミアセタルの直接アリアル化反応 | 670,000 |
| | 2022-3043 | 上羽 涼太郎 | | | 東京農工大学大学院農学府農学専攻自然環境資源コース物質循環環境科学プログラム | 修士課程2年 | 河川の物質循環と生産性に影響を与えるワンドの生態系機能の解明 | 650,000 |
| | 2022-3001 | 川脇 徳久 | | | 東京理科大学理学部応用化学科 | 助教 | 高指数面の選択的露出を目指したアセンプリナノ粒子合成法の確立 | 610,000 |
| | 2022-3026 | 星野 翔麻 | | | 東京理科大学理学部第一部化学科 | 助教 | 単分子反応遷移状態近傍における量子状態イメージング分光法の開発 | 670,000 |
| | 2022-3034 | 高橋 那央也 | | | 北里大学大学院薬学研究科薬科学専攻 | 博士後期課程2年 | 安価な水溶性アミンを用いた含水溶媒系における触媒的脱水縮合アミド化反応の開発 | 670,000 |
| | 2022-3004 | 久世 雅和 | | | 明治大学研究・知財戦略機構 | 研究推進員 | 化学振動反応のパターン形成が創発する非線形現象の探索と制御 | 670,000 |
| | 神奈川県 | 2022-3013 | 楠本 壮太郎 | | | 神奈川大学工学部物質生命化学科 | 助教 | 柔軟な結晶の動的分子間を利用した特異機能性材料の創成 |
| 2022-3006 | | Catti Lorenzo | | ドイツ | 東京工業大学科学技術創成研究院化学生命科学研究科 | 助教 | ピリジニウムベースの多環芳香族ナノクリップ：新しい機能性ナノ集合体への迅速なアクセス | 610,000 |
| 長野県 | 2022-3031 | 河村 篤 | | | 信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所生体分子イノベーション部門 | 助教 | デュアル触媒系によるクロスカップリング反応を鍵反応としたプロアントシアニジン類の新規合成法の開発 | 740,000 |

〔化学系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|------------|----|----|----------------------------------|----------|---|---------|
| 富山県 | 2022-3028 | 西沖 航平 | | | 富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻 | 博士課程1年 | 活性酸素発生效率の制御が可能な“がん細胞選択的ロタキサン型光増感剤”の創製 | 590,000 |
| 石川県 | 2022-3047 | 眞塩 麻彩実 | 女 | | 金沢大学理工研究域物質化学系 | 助教 | 沿岸域におけるパラジウム分布と挙動解明 | 440,000 |
| 岐阜県 | 2022-3044 | 柴田 理古 | | | 岐阜大学大学院工学研究科工学専攻 | 博士後期課程2年 | 希少シス型長鎖脂肪酸の大量連続化学合成系の開発 | 740,000 |
| | 2022-3021 | 篠塚 賢一 | | | 岐阜大学流域圏科学研究センター | 助教 | 三酸素安定同位体比を用いた屋久島における急峻な地形を流れる渓流水が沿岸域へ与える窒素起源の解明 | 640,000 |
| 静岡県 | 2022-3019 | 苺米 倭 | | | 静岡大学大学院総合科学技術研究科理学専攻 | 修士課程2年 | G4含有プロモーターを制御する人工転写因子の開発 | 610,000 |
| 愛知県 | 2022-3012 | NAM Dayeon | 女 | 韓国 | 自然科学研究機構生命創成探求センター | 特任研究員 | 二成分シグナル伝達系VgrR-VgrSによる細胞内鉄濃度制御の分子機構解明 | 610,000 |
| | 2022-3025 | 小山田 悠介 | | | 名古屋工業大学大学院工学研究科工学専攻生命・応用化学系プログラム | 博士後期課程1年 | シアノ基を介した新しい基質活性化法の開発 | 740,000 |
| 滋賀県 | 2022-3029 | 平島 繭 | 女 | | 立命館大学大学院薬学部生命科学研究科生命科学専攻 | 博士後期課程3年 | 光・電気駆動型新規酸化反応を鍵とする天然資源からの立体選択的ピロリジン環構築 | 670,000 |
| 京都府 | 2022-3009 | 田渡 司 | | | 京都大学大学院薬学研究科薬学部薬科学科 | 博士後期課程2年 | ベンザインとアルキンのエン反応を鍵としたヘテロ原子置換アレンの立体特異的合成 | 740,000 |
| 大阪府 | 2022-3036 | 松本 一真 | | | 近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻 | 博士前期課程1年 | 炭素カチオンの発生を基軸とする両極合成による炭素-炭素結合形成反応の開発 | 740,000 |
| | 2022-3008 | 鶴田 智暉 | | | 大阪公立大学大学院理学研究科化学専攻 | 博士後期課程1年 | イガイ類の足糸形成阻害に着目した、環境にやさしい新規防汚剤の開発研究 | 810,000 |
| | 2022-3023 | 原田 美緒 | 女 | | 大阪市立大学大学院理学研究科物質分子系専攻 | 博士後期課程2年 | 量子雑音限界を目指した円二色性顕微装置の開発と微小液滴におけるキラル反応場の探求 | 670,000 |
| | 2022-3046 | 関 莊一郎 | | | 大阪市立大学大学院理学研究科物質分子系専攻 | 博士後期課程2年 | 海洋性緑藻ミルの侵略的繁茂の要因となる強光環境適応機構におけるカロテノイド分子の機能解明 | 560,000 |
| | 2022-3027 | 山内 泰宏 | | | 大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 | 博士後期課程2年 | タングステンおよびルイス酸触媒を用いたアレン類の脱芳香族化反応の開発 | 650,000 |
| | 2022-3030 | 岡 直輝 | | | 大阪大学大学院薬学研究科 | 博士課程3年 | 有機化合物の革新的化学合成法の開拓：アライン遷移金属触媒反応の配向制御 | 740,000 |
| 兵庫県 | 2022-3033 | 北村 由羽 | 女 | | 関西学院大学大学院理工学研究科化学専攻 | 博士後期課程3年 | 蛍光指紋情報の機械学習に基づく金属-有機構造体結晶の構造予測システム創製 | 740,000 |
| | 2022-3040 | 丸賀 有人 | | | 神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻 | 博士前期課程2年 | ダブルつるまき状分子不斉化合物の合成と応用 | 670,000 |
| | 2022-3014 | 原 史子 | 女 | | 武庫川女子大学薬学部薬学科 | 助手 | 難治性乳がんの核医学イメージングを目的としたMUC16指向性ペプチドプローブの開発 | 620,000 |
| 徳島県 | 2022-3017 | 孫 春朝 | | 中国 | 徳島大学大学院薬科学教育部創薬科学専攻薬品製造化学分野 | 博士後期課程2年 | 構造活性相関研究を志向したPancratistatin誘導体の立体網羅的合成研究 | 740,000 |
| 福岡県 | 2022-3048 | 塩本 昌平 | | | 九州大学先導物質化学研究所 | 研究員 | 側鎖間隔を制御した糖鎖高分子による抗血栓性表面の創出 | 740,000 |
| | 2022-3024 | 宮原 涼 | | | 九州大学大学院薬学府創薬科学科 | 博士後期課程2年 | 酸化損傷塩基を特異的に認識しシーケンシングを可能にする人工核酸の開発 | 550,000 |
| | 2022-3020 | 高野 心 | | | 北九州市立大学大学院国際環境工学研究科環境システム専攻 | 博士後期課程1年 | 粒子構造が制御されたナノ粒子による、粒子構造と細胞内在性の相関関係の解明 | 740,000 |

〔化学系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|--------|----|----|-------------------------|----------|-----------------------------|---------|
| 長崎県 | 2022-3022 | 山本 耕介 | | | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻 | 助教 | 付加環化反応を基盤とするスピロ環状スルホンの合成法開発 | 610,000 |
| | 2022-3032 | 川上 有希子 | 女 | | 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究水産学専攻 | 博士前期課程2年 | 北西太平洋表層におけるビタミンB12の循環機構の解明 | 800,000 |

2022 年度生物系総評

生物系選考委員会委員長

生物系の場合、共通して生命現象を対象としていますが、アプローチが多岐にわたり、しかもそれぞれが高度に専門化してきており、さらに申請件数が極めて多数のために、採択研究が特定の分野に偏ることがないように、分野を分けて審査を行なっています。

生理・発生・分子・生化・遺伝などの分野

若い世代の研究者、大学院生の方々のフレッシュなアイデアをもとに出された申請内容を読ませていただきました。今回技術的な進歩が着実に進行していることは窺われたものの、特記すべき大きな新たな技術の登場はなかったようです。外国人の応募が増えたことが特徴的に思われました。

単に網羅的な分子の比較解析に留まらず、多数の分子間相互作用や細胞間相互作用をどのように評価するのか、多くのパラメーターの中から重要なものをどのように取捨選択するのか、また機能にどう結びつくのかを理解しようという段階の研究申請内容が多く見られました。さらに中枢神経系の研究においては、オプトジェネティクスなどの手法やノックインマウス作成と組み合わせて独自の実験系を組み立て細胞間ネットワークの解析が試行錯誤されているものも見受けられ、機能解析に至る優れた解析例となるように思われます。

「知りたいことがあり、それを明らかにしたいのでこの方法を選んだのか」と納得させられる申請があった一方で、方法自体は目新しいものの、その方法が目的の実現に最善のものであるのかが判断できないケースもありました。どうしても知りたいことがあるのでやむを得ず、問題解決のためには高額費用の解析が必要であり、他に手法が考えられないなどの主張も聞きたいと思うところです。高額の費用がかかるので申請しましたといった、予算を捻出すること自体が目的となっているように見える申請課題は評価しづらいところです。

また当該研究分野の競争が激しいことを強調した申請が複数見られました。世界中で多くの研究者がしのぎを削っている重要な研究であることを伝えたいのだと思いますが、多くの研究者が行なっている研究は、その申請者が研究をせずともいずれ誰かの手によって結果が出る研究であるとも言えるでしょう。単に研究者人口が多いことを強調するのではなく、その研究内容の重要性をきちんと申請書の中で示すことが重要かと思います。そうした研究内容ですと、既に大型予算などによる支援が得られていることも多いでしょう。またご自身の申請の独自性を PR する際には、先輩や研究室の HP の図のコピーではなく、申請に見合った新規の図表があることが望ましいでしょう。

笹川科学研究助成の申請には、すぐには役に立たなくても純粋に基礎科学としての面白

さを追求したものがふさわしいと考えております。実用性を必要以上に強調する傾向が散見されたことが気になりました。既成概念にとらわれず、生命現象をみた際に不思議さの発見に始まり、直視し、問題解決をはかるといった申請が少し減ったことは残念に思います。

「先行研究によると。。」「先行研究の結果から、以下のように。。」こうした記述は論理的ではあるのですが、こうした同様のテーマについて既になされた研究結果報告に縛られることとなり、新しい展開が生まれる可能性が少なくなるように思えます。時には「先行研究があるが、xxx といった現象は説明できない。なので、別の xx というモデルを考え、検証した。」といった大胆にも思えるかもしれないチャレンジ精神を出してもらった提案も期待したいと思います。せめて先行研究の結果について、申請者自身も再現性を試し、直にその評価をしていただきたいと思えます。インターネットでなんでも情報は手に入る時代です、だからこそ、生身での実験、調査に基づいた経験を大事にして、研究を進めてください。

分類・生態・農・水産などの分野

昨年度に引き続き、コロナ禍にもかかわらず様々な生物群を対象とした、熱意溢れる多くの申請があったこと、審査委員一同大変心強く思いました。本年度の申請内容も分類、生態、行動、発生、保全、資源などに関する幅広い分野にわたっていました。また、女性研究者からの申請件数も増加し、理論生態学からフィールド調査主体の研究の幅広い研究分野において女性研究者の皆さんが活躍されていることも大変喜ばしく思いました。

本年度の申請に際しては、コロナ禍での研究実施を踏まえ、海外調査や研究サンプルの入手に関しても配慮された内容も多く見られ、科学者としての臨機応変な対応能力も垣間見られました。採択に至った研究は、いずれも研究の視点がユニークであり、研究計画もしっかりしており、実施計画と支出計画の対応関係も明確な内容となっていました。しかし、一方で、採択に至らなかった申請については、本年度の申請内容の傾向や特徴のまとめも含め以下に留意事項を示しますので、来年度以降の申請の参考にしていただければと思います。

若い研究者の方々からの申請が多くなっていることは大変喜ばしいことです。しかし、研究経験の少ない学士、修士課程の学生の場合、申請者独自の発想ではなく、所属する研究室で実施している研究の一部を担うと思われる研究テーマ設定や研究実施計画が見られました。そのため、当人の研究者としての資質を評価する情報が限られており、せっかく素晴らしい研究計画を提出されても、実際に申請者自身の実行可能性の判定が難しいと考えられる内容がありました。また、現象の解明に長い時間を必要とする大きな研究目標は、申請者の研究姿勢を理解するうえで大変役に立ち、歓迎しますが、本制度の助成期間が1年間なので、その間の実施内容とそれによって期待される成果との関連性をはっきり示してください。

本年度の申請の特徴としては、従来の基礎研究分野に加え、応用研究分野の申請も多くあったことです。農学系の分野では、サツマイモ、カンキツなどの栽培作物を研究対象としたものや、ウシの飼料など、直接的に実用につながる有意義な研究が目を見ました。その一方で、外来種問題、生物農薬、環境影響評価など、研究の出発点としてのアイデアは理解できるものの、実際に申請された研究内容、研究期間と到達点との関係が明確に書かれておらず、研究成果がどのように実効性、実用性へ展開して行くのかの判断が付かないものも多く見られました。

基礎的研究分野でのユニークな申請としては、昆虫の脱皮回数の制御や陸生昆虫の遊泳行動など、気が付きそうであまり気が付かない視点の研究課題の提案などがありました。水圏分野での研究では、微生物群集構造解析や未培養微生物の検出に適用し、環境影響や特徴把握のための培養を目指すなど挑戦的提案もありました。また、これまで植物を対象とした研究においては、地上部の現象としてのその生理学的側面や動態・構造を明らかにする研究が多かったのに対し、地下部、特に共生菌との関係に注目した申請が多くなっているのも、近年の研究のトレンドの1つと思われます。

本年度の申請に限らず、近年の申請では、生態学・農学・生物工学・行動学・系統分類学など多岐の研究において遺伝子情報を利用することが常套手段となっており、これは遺伝子解析が比較的安価に外注できるようになってきたことも大きな影響をしていると思えます。ただし、研究予算に関しては、遺伝解析の委託費用も当然必要な事項と思いますので、実際のサンプル数や、解析に必要な数であるか、きちんと研究計画との関連性の中で、予算を組み立てて欲しいと思いました。また、経費の中にインキュベーターなど、高額の備品の購入が含められていた申請も散見されたのが残念でした。当分野の研究では、野外調査が研究の基礎をなすものも多く、それに関わる費用も当然必要とされるものと思います。しかし、その調査費用がどのように算出されたのか（調査計画との整合性）が分かりにくいものも多く見られました。

今年も外国の生物種群を研究対象にしている申請がありました。生物多様性条約の ABS (Access and Benefit-Sharing) に関わる法令遵守の必要があることは、当然のことですが、自身の研究課題において実際に生物多様性条約の ABS をどのようにクリアするか（実際には、申請時にクリアされていることが好ましいです）が、明確に示されていないものも多くありました。さらに、注意していただきたいのが、ABS への対応は海外におけるフィールドワークでの研究対象生物ばかりではなく、国内のペットショップから入手した（あるいは継代飼育した）生物を研究に用いる場合でも適切に対応していなければなりません。ABS に適切に対応していないと、大切な研究成果を論文として発表できなくなりますので、応募者のみならず、その指導的立場の方は申請前に ABS 対応を適切に行っていただければと思います。

〔生物系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|--------|----|----|--|----------|--|---------|
| 北海道 | 2022-4031 | 大町 知輝 | | | 室蘭工業大学大学院工学専攻 | 博士後期課程1年 | 水産系廃棄物アコヤガイ貝殻真珠層の有効利用－機能的食品としての利用－ | 710,000 |
| | 2022-4008 | 川村 野乃花 | 女 | | 帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻 | 博士前期課程2年 | 鶏卵の遊離アミノ酸の遺伝率の推定および遺伝子座の探索 | 550,000 |
| | 2022-5038 | 伊藤 和顕 | | | 帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻 | 博士前期課程2年 | ウシからのメタン排出削減を実現する飼料用樹木種の探索 | 400,000 |
| | 2022-4069 | 閻 乃箏 | 女 | 中国 | 北海道大学 | 特任助教 | スケトウダラ0歳魚の広帯域ターゲットストレングスの解明 | 760,000 |
| | 2022-4003 | 周 至文 | | 中国 | 北海道大学大学院医学研究院細胞薬理学教室 | 助教 | マイクログリアによる睡眠の制御 | 700,000 |
| | 2022-5016 | 藤田 凌平 | | | 北海道大学大学院環境科学院生物圏科学専攻 | 博士後期課程2年 | 新規ベリーの成分の予測モデル構築－ハスカップ種間雑種を利用したトランスオミクス解析－ | 640,000 |
| | 2022-4083 | 伊藤 柚里 | 女 | | 北海道大学大学院環境科学院生物圏科学専攻厚岸臨海所 | 修士課程1年 | アマモ場のマイクロプラスチック捕捉効果：葉上部による捕捉率と捕捉後の動態の解明 | 650,000 |
| | 2022-4098 | 竹内 颯 | | | 北海道大学大学院環境科学院生物圏科学専攻生態遺伝学コース | 修士課程1年 | 消化管内共生微生物の脂質分解によるクジラ目の食性収斂 | 870,000 |
| | 2022-4063 | 田中 優斗 | | | 北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻 | 修士課程2年 | マナモコの流体力特性と海中構造物の流体力学的陰影が個体に与える影響 | 780,000 |
| | 2022-4094 | 大納 進太郎 | | | 北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻海洋計測学講座 | 修士課程2年 | 自動船舶識別装置(AIS)を用いた北太平洋における日本・中国アカイカ漁場とその環境要因の解明 | 790,000 |
| | 2022-4068 | 高山 のあ | 女 | | 北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻水産工学講座 | 博士前期課程2年 | 海底地形構造がもたらす中深層性魚類マイクロネクトンの空間分布と日周鉛直移動様式の変化に関する研究 | 730,000 |
| | 2022-5021 | 清水 洲平 | | | 北海道大学大学院理学院自然史科学専攻 | 博士後期課程3年 | 形質獲得の順序関係を検出するアプローチ：巨大化を可能にした形質について | 510,000 |
| | 2022-5049 | 江指 万里 | 女 | | 北海道大学大学院理学院自然史科学専攻多様性生物学講座III | 修士課程3年 | 鳥類の共同繁殖の進化の推進力は何か？－亜種リュウキュウオオコノハズを活用した研究－ | 650,000 |
| | 2022-4038 | 西 航司 | | | 酪農学園大学獣医学群獣医学類 | 研究生 | Trueperella pyogenesのバイオフィルム形成がウシ子宮炎の病態に及ぼす影響 | 630,000 |
| 青森県 | 2022-4065 | 熊谷 信是 | | | 弘前大学農学生命科学部生物学科 | 研究機関研究員 | プラナリアにおける2つの生殖様式を制御するFGF受容体関連遺伝子群の相互関係の解明 | 600,000 |
| 岩手県 | 2022-4088 | 大土 直哉 | | | 東京大学大気海洋研究所大槌沿岸海洋研究センター | 助教 | 危機回避戦略の異なるヤドカリ類の潮下岩礁上の微地形利用様式の比較 | 750,000 |
| 宮城県 | 2022-4104 | 村上 将希 | | | 東北大学大学院生命科学研究所 | 博士後期課程1年 | 種分化と分散能力の関係を検証する：伊豆諸島の風散布植物をモデルとして | 560,000 |
| | 2022-5035 | 竹田 山原楽 | | | 東北大学大学院生命科学研究所生態発生適応科学専攻個体ダイナミクス講座動物発生分野 | 博士前期課程2年 | 鳥類のはばたき飛翔を生み出す骨格形態の形成メカニズムの解明 | 650,000 |
| 山形県 | 2022-5010 | 榎本 孝晃 | | | 岩手大学大学院連合農学研究科地域環境創生学専攻（配属：山形大学） | 博士後期課程2年 | 島嶼における外来哺乳類の種間関係：奥尻島における外来食肉目3種のニッチ分割評価 | 690,000 |
| | 2022-5042 | 齋藤 萌絵 | 女 | | 山形大学大学院農学研究科農学専攻生物環境学領域 | 修士課程2年 | サワグルミの細根滲出物が林床木本植物の細根生長に与える影響 | 580,000 |
| 福島県 | 2022-4020 | 菅波 眞央 | | | 福島大学食農学類附属発酵醸造研究所 | 特任助教 | 青ダイズの早期光合成能力低下プロセスの解明～光化学系I光阻害に着目して～ | 650,000 |

〔生物系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|---------|----|----|---|----------|--|---------|
| 茨城県 | 2022-4067 | 佐々木 麻綾 | 女 | | 筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群フロンティア医科学学位プログラム | 修士課程1年 | 新たに見出したクオラムクエンチング系による黄色ブドウ球菌の病原性制御の解明 | 660,000 |
| | 2022-5004 | 小森谷 泰 | | | 筑波大学大学院生命地球科学研究群環境科学学位プログラム | 修士課程1年 | 島嶼における昆虫の飛翔能力消失の解明：ハチジョウノコギリクワガタはなぜ飛べないか | 650,000 |
| | 2022-5006 | 谷内 美月 | 女 | | 筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群環境科学学位プログラム | 博士前期課程2年 | 鉱山跡地に生育するミゾソバの重金属耐性機構及び内生細菌の機能の解明 | 570,000 |
| | 2022-5033 | 吉川 広輝 | | | 筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学学位プログラム | 博士後期課程1年 | 軟体動物における硬組織形成の進化的起源の解明 | 700,000 |
| 群馬県 | 2022-4085 | 岡崎 夏鈴 | 女 | | 東洋大学大学院生命科学研究所生命科学専攻 | 博士後期課程1年 | 不定芽形成を開始するサイトカニン生成遺伝子の転写促進因子の同定 | 550,000 |
| | 2022-4095 | 片野 亘 | | | 東洋大学大学院生命科学研究所生命科学専攻 | 博士後期課程3年 | 心筋増殖および洞房結節形成における転写因子Sal11/4の機能解析 | 680,000 |
| 埼玉県 | 2022-4017 | 塚田 耕太郎 | | | 埼玉大学大学院理工学研究科理工学専攻 | 博士後期課程3年 | 抗がん剤の治療効果を促進する阻害剤開発に資するSNM1Aの解析ーアカパンカビを用いた遺伝学的研究ー | 580,000 |
| 千葉県 | 2022-4055 | 中谷 一真 | | | 千葉大学大学院医学薬学府先端医学薬学専攻 | 博士後期課程1年 | Codingとnoncoding RNAを判別する新規指標「PTIスコア」を用いた翻訳制御機構の解明 | 750,000 |
| | 2022-4013 | 杉田 智哉 | | | 千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻 | 博士前期課程1年 | ホストが異なる海産キクイムシ属のもつ消化酵素の解析 | 650,000 |
| | 2022-5022 | 上野 尚久 | | | 千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻生物学コース | 博士後期課程2年 | 種間と種内でみられる生態的創発現象の遺伝情報による統合 | 700,000 |
| | 2022-4066 | 黄 燦 | 女 | 中国 | 東京大学大学院新領域創成科学研究科 | 博士後期課程1年 | 海洋の有機物分解過程解明に向けた「波の花」微生物のゲノム・メタゲノム解析 | 810,000 |
| | 2022-4096 | 高田 真子 | 女 | | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 修士課程2年 | 海表面マイクロ層に生息する海洋微生物の光利用と光防御ー海洋微生物の新たな光戦略の探索ー | 550,000 |
| | 2022-4021 | 大場 理幹 | | | 東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻 | 博士後期課程1年 | 分布南限域である三陸沿岸におけるサケ稚魚の初期生態の解明 | 760,000 |
| | 2022-4089 | 田島 寛大 | | | 東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻 | 修士課程2年 | アカウミガメを用いた潜水深度決定の要因解明、及び、海洋気象観測への応用 | 450,000 |
| | 2022-4049 | 松田 康佑 | | | 東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻 | 博士後期課程1年 | 摂餌海域における大型外洋性魚類の水平移動を規定する要因を明らかにする | 600,000 |
| | 2022-5015 | 花輪 万智 | 女 | | 放送大学大学院文化科学研究科 | 博士後期課程1年 | 都市緑地において鳥類は池からどのような生態学的影響を受けているか | 530,000 |
| 東京都 | 2022-4059 | 布施谷 百合香 | 女 | | お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻 | 博士前期課程2年 | ゲノム編集技術を用いてCoccomyxa sp. Obi株におけるDGAT2の真の機能を明らかにする | 550,000 |
| | 2022-4022 | 竹内 日向子 | 女 | | お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻生命科学コース | 博士前期課程2年 | 褐藻トゲモクの生態的「強さ」の謎に挑むー岩礁域に同所的に生育するトゲモクとオオバモクの網羅的比較ー | 750,000 |
| | 2022-4025 | 阿部 友希 | 女 | | お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻 | 博士前期課程2年 | VM01の角膜保護作用に関する研究 | 600,000 |
| | 2022-4064 | 中山 敦仁 | | | 国立がん研究センター研究所がんRNA研究ユニット | 博士後期課程4年 | 異常RNAの空間的分布の解明 | 600,000 |

〔生物系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|---------------------|----|----|-------------------------------|-----------|--|---------|
| 東京都 | 2022-4050 | 米谷 達哉 | | | 国立がん研究センター研究所がん細胞システム研究ユニット | 特任研究員 | 膵臓がん腫瘍微小環境を再現する細胞共培養系の開発 | 600,000 |
| | 2022-4046 | 水池 彩 | 女 | | 国立感染症研究所細胞化学部 | 研究員 | 新規チャネル型脂質輸送タンパク質の同定と機能解析 | 690,000 |
| | 2022-5029 | 飯山 香織 | 女 | | 創価大学大学院理工学研究科環境共生工学専攻 | 博士前期課程1年 | 南極高塩分海跡湖ざくろ池に生息する共生性未培養バクテリアの集積培養と分離の試み | 560,000 |
| | 2022-4107 | 矢野 光一 | | | 創価大学大学院理工学研究科環境共生工学専攻 | 博士前期課程2年 | 宇宙から観る植物プランクトン：植物プランクトン機能タイプ（PFT）とその光学特性の解明 | 430,000 |
| | 2022-5018 | 和田 智竹 | | | 総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻 | 一貫制博士課程5年 | 南極湖沼における濾過捕食者ヒルガタワムシの生態の解明 | 650,000 |
| | 2022-4009 | 伊藤 開 | | | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋生命資源科学専攻 | 修士課程1年 | 紅色光合成細菌由来抗ウイルス効果のクルマエビ類養殖への活用 | 760,000 |
| | 2022-4032 | 福嶋 悠人 | | | 東京大学生物科学専攻 | 特任研究員 | 初期発生におけるヒストンスーパーアセチレーション：その機能と分子メカニズムの解析 | 630,000 |
| | 2022-5039 | 西本 誠 | | | 東京大学大学院 | 博士課程3年 | 野外データを用いた間接効果の統計的評価手法の開発 | 620,000 |
| | 2022-4100 | 池田 行徳 | | | 東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻 | 博士後期課程2年 | 三次元微小血管モデル作製技術を基盤とした、ポリクロナル転移時におけるがん血管内外浸潤動態の解明 | 650,000 |
| | 2022-4007 | 大須賀 佑里 | 女 | | 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 | 博士後期課程1年 | 腸内細菌代謝物による腸脳連関調節機構の解明 | 600,000 |
| | 2022-4073 | 村田 裕介 | | | 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 | 博士後期課程1年 | 茎頂におけるフロリゲン輸送制御メカニズムの解明 | 740,000 |
| | 2022-4014 | Chen Yingxi | 女 | 中国 | 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系 | 博士後期課程2年 | 植物細胞におけるヘム代謝系の転写開始点制御とその生理機能の解明 | 680,000 |
| | 2022-4087 | 池田 優成 | | | 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻 | 博士課程2年 | 筋線維に細胞老化が誘導される生理学的意義 | 550,000 |
| | 2022-4106 | Watcharapon Promsut | | タイ | 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻 | 博士課程3年 | ヒトCOFG症の原因遺伝子であるMab211欠損マウスでの包皮腺/会陰腺の低形成とエネルギー代謝 | 550,000 |
| | 2022-4042 | 溝端 秀彬 | | | 東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻 | 修士課程1年 | ムカデミノウミウシを用いた水生無脊椎動物-褐虫藻共生に関する分子生物学的研究 | 660,000 |
| | 2022-4045 | 谷川 真穂 | 女 | | 東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻 | 修士課程2年 | サルバ類Thaliademocratica突発的高密度群形成要因の解明：固定試料を用いた摂餌生態復元 | 400,000 |
| | 2022-4090 | 一ノ瀬 智士 | | | 東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻 | 修士課程2年 | ヨコエビ類における長鎖多価不飽和脂肪酸（LC-PUFA）生合成能の多様性に関する研究 | 560,000 |
| | 2022-5040 | 神原 昂太 | | | 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻 | 修士課程1年 | 「麦踏み」応答を司る分子機構の解明 | 650,000 |
| | 2022-4047 | 森川 勝太 | | | 東京大学大学院薬学系研究科 | 特任研究員 | Axo-axonic細胞特異的な観察と操作による情動回路の解析 | 740,000 |
| | 2022-5052 | 田村 ゆり | 女 | | 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 | 修士課程1年 | 海洋島における新しい花シンドローム：小笠原諸島における白色花の平行進化 | 740,000 |
| | 2022-5050 | 渡邊 拓巳 | | | 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 | 修士課程2年 | 恐竜-鳥類系統の顎関節と中耳の進化 | 670,000 |
| | 2022-5036 | 宇野 友里花 | 女 | | 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 | 博士後期課程1年 | 恐竜-鳥類系統における手骨格の「発生フレームシフト」進化に関する発生機構の研究 | 730,000 |
| | 2022-4076 | 城取 良樹 | | | 東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻 | 博士後期課程3年 | シアノバクテリアの光合成生育に必須な新規機能未知遺伝子の機能解明 | 570,000 |

〔生物系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|--------|----|----|------------------------------------|----------|--|---------|
| 東京都 | 2022-4079 | 小川 雅文 | | | 東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻 | 博士前期課程2年 | ゲノム編集を用いた性染色体の常染色体転換の模倣と遺伝子量補償の変化 | 700,000 |
| | 2022-5032 | 諸岡 真希 | 女 | | 東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻 | 博士前期課程2年 | 小笠原諸島における外来種グリーンアノールトカゲの生態系への影響と環境への適応進化 | 400,000 |
| | 2022-4091 | 伊藤 壽将 | | | 東京農業大学大学院生命科学研究科バイオサイエンス専攻 | 博士前期課程2年 | マウス始原生殖細胞における性分化関連microRNAの役割 | 750,000 |
| | 2022-5023 | 柿沼 駿輔 | | | 東京農工大学大学院生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻 | 博士後期課程2年 | なぜ飛翔能力を捨てたのか？—コウチュウ目における後翅の退化機構の解明— | 600,000 |
| | 2022-5020 | 萩原 絢子 | 女 | | 東京農工大学大学院農学府共同獣医学専攻 | 博士課程1年 | 葉と類似した鱗翅目スズメガ科幼虫の仮装および背景同調効果の検証 | 750,000 |
| | 2022-4019 | 田中 愛海 | 女 | | 東京薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻 | 博士課程3年 | ヒト肺組織上における呼吸器細菌間クロストークの解明 | 600,000 |
| 神奈川県 | 2022-4084 | 藤原 睦也 | | | 横浜市立大学大学院生命医科学研究科生命医科学専攻 | 博士前期課程2年 | 光遺伝学による液-液相分離制御を用いた局所翻訳調節とシナプスの形態・機能の解析 | 740,000 |
| | 2022-4093 | 氏部 浩太 | | | 青山学院大学大学院理工学研究科理工学専攻生命科学コース | 博士後期課程1年 | 早老するゼブラフィッシュを用いた老化の研究 | 730,000 |
| | 2022-5037 | 小寺 稜 | | | 鶴見大学歯学部 | 助手 | マイルカ類の特殊な歯根膜の形態学的・分子生物学的解明 | 700,000 |
| | 2022-4011 | 松田 隆志 | | | 東京工業大学科学技術創成研究院生体恒常性研究ユニット | 特任助教 | 水分および塩分の欲求を抑制する神経回路機構の解明 | 700,000 |
| | 2022-4056 | 大友 洋平 | | | 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 | 博士後期課程2年 | 小型甲殻類ワレカラにおける海洋環境に適応した特異的ボディプランの形成機構 | 710,000 |
| | 2022-4048 | 岡本 俊輔 | | | 日本大学大学院獣医学研究科獣医学専攻 | 博士課程3年 | RNA分解型アンチセンス人工核酸を用いた日本脳炎ウイルス増殖抑制メカニズムの解明 | 550,000 |
| | 2022-5019 | 笠谷 幹朗 | | | 日本大学大学院生物資源科学研究科生物環境科学専攻 | 博士後期課程1年 | オタマジャクシにおける段階的な捕食リスクと対応した誘導防御メカニズムの解明 | 330,000 |
| | 2022-4035 | 貴田 大智 | | | 北里大学大学院医療系研究科医科学専攻 | 修士課程2年 | 神経軸索線維束の内包の形成における膜貫通タンパク質Linxの作用機構の解明 | 600,000 |
| | 2022-4036 | 藤原 弘貴 | | | 北里大学大学院海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻 | 修士課程2年 | 東日本大震災が岩手県越喜来湾におけるウキゴリ属Gymnogobius 3種の出現動態に与えた影響 | 680,000 |
| | 2022-4054 | 宮寄 海成 | | | 北里大学大学院海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻 | 修士課程2年 | テトロドトキシン類縁体によるフグ類誘引活性の解明 | 600,000 |
| | 2022-4082 | 一岡 優吾 | | | 北里大学大学院海洋生命科学研究科海洋生命科学専攻 | 修士課程2年 | 濾胞樹状細胞に相当する細胞は魚類に存在するか | 590,000 |
| | 2022-4034 | 横川 大祐 | | | 明治大学大学院農学研究科農芸化学専攻 | 博士後期課程1年 | 糸状菌より発見された新規脂質成分であるステロールアミノ酸誘導体の生理機能の解明 | 740,000 |
| | 2022-5012 | 糸井川 壮大 | | | 明治大学農学部農芸化学科 | 博士研究員 | 両生類における味覚の環境適応：変態による食性・生活圏転換は味覚を変化させるのか？ | 650,000 |
| 山梨県 | 2022-4108 | 富士 大輔 | | | 山梨大学大学院医工農学総合教育部生命環境学専攻バイオサイエンスコース | 修士課程2年 | アレルギー性疾患に関連する新規IL-5・IL-5R間相互作用阻害剤の同定と機能解析 | 670,000 |
| 長野県 | 2022-4040 | 遠藤 勝紀 | | | 信州大学大学院総合理工学研究科総合理工学専攻生物・生命科学分野 | 博士課程2年 | 免疫代謝を制御する食品成分ガラート型プロシアニジンの標的分子の同定 | 550,000 |

〔生物系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|---------|----|----|---------------------------------|----------|--|---------|
| 新潟県 | 2022-5026 | 時田 駿 | | | 新潟大学大学院自然科学研究科 | 博士前期課程2年 | 被災アカネズミを用いた低線量・低線量率慢性放射線被ばくの生殖細胞系列へのバイオドシメトリー法の確立 | 550,000 |
| | 2022-5013 | 渡部 侑果 | 女 | | 新潟大学大学院自然科学研究科環境科学専攻流域環境学コース | 博士前期課程2年 | 「シマヘビによる魚食が佐渡島の森川海間の物質循環に与える影響」 | 460,000 |
| | 2022-4030 | 新田 陽平 | | | 新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター | 特任助教 | パーキンソン病は α シヌクレインの摂食によって引き起こされるのか？：ショウジョウバエモデルの樹立 | 700,000 |
| 富山県 | 2022-5008 | 嶋田 翔弥 | | | 富山大学大学院理工学教育部生物学専攻 | 修士課程2年 | ゼブラフィッシュを用いた魚類特有の神経再生能の解明 | 590,000 |
| | 2022-4024 | 富樫 彩音 | 女 | | 富山大学大学院理工学研究科理工学専攻地球生命環境科学プログラム | 修士課程1年 | メダカの海水適応を可能とするCa ²⁺ 依存的なクロライド排出機構の解明 | 660,000 |
| 石川県 | 2022-4027 | 川村 龍矢 | | | 金沢大学大学院自然科学研究科自然システム学専攻 | 博士前期課程2年 | アカテガニの幼生の生理学的・時間生物学的研究：海水適応能及び潮汐リズムの解析 | 810,000 |
| 福井県 | 2022-4004 | 山田 和正 | | | 福井県立大学海洋生物資源学部海洋生物資源学科 | 助教 | 裸の珪質鞭毛藻を用いて珪酸質骨格の構築機構と生理生態学的意義を解く | 870,000 |
| 岐阜県 | 2022-5002 | 菅原 早紀 | 女 | | 岐阜大学大学院自然科学技術研究科生物生産環境科学専攻 | 修士課程2年 | 日本産淡水性カメ類による種子散布行動の解明 | 510,000 |
| | 2022-4018 | 吉野 雄太 | | | 岐阜薬科大学生命薬学大講座生化学研究室 | 助教 | ヒアルロン酸代謝を促すことで表皮タイト結合バリアを強化する新規機能性素材の開発 | 750,000 |
| 静岡県 | 2022-5027 | 細木 拓也 | | | 国立遺伝学研究所 | 特任研究員 | 東北震災後に出現したトゲウオ集団における交雑後も二種の遺伝的分化が維持される機構 | 650,000 |
| | 2022-5007 | 山崎 惟吹 | 女 | | 静岡大学大学院総合科学技術研究科農学専攻応用生命科学コース | 修士課程2年 | 強酸性茶園土壌へのアルカリ資材投入による微生物叢変動の解明 | 650,000 |
| 愛知県 | 2022-5028 | 左倉 和喜 | | | 自然科学研究機構基礎生物学研究所進化発生研究部門 | 研究員 | 陸生昆虫における遊泳行動の進化過程推定 | 390,000 |
| | 2022-5051 | 中川 颯也 | | | 総合研究大学院大学生命科学研究科基礎生物学専攻 | 博士後期課程1年 | アサガオが朝に開花する分子機構の解明 | 650,000 |
| | 2022-5047 | 佐藤 大気 | | | 藤田医科大学医科学研究センターシステム医科学研究部門 | 助教 | 恐怖反応の創発特性に関する進化遺伝基盤の検証 | 590,000 |
| | 2022-5014 | 任 亮 | 女 | 中国 | 名古屋大学大学院生命農学研究科動物科学専攻 | 博士後期課程1年 | 冬期のうつ様行動の分子基盤の解明 | 630,000 |
| 三重県 | 2022-4102 | 武藤 滉 | | | 三重大学大学院生物資源学研究科生物圏生命科学専攻 | 博士前期課程2年 | 形態および遺伝子から見たミミズハゼ属群の系統類縁関係 | 610,000 |
| | 2022-5053 | 福岡 太一 | | | 三重大学大学院生物資源学研究科生物圏生命科学専攻 | 博士前期課程2年 | 三重県大内山川におけるドローンテレメトリーを用いたナガレヒキガエルの春眠場所の特定 | 590,000 |
| | 2022-4002 | 自見 直人 | | | 名古屋大学大学院理学研究科附属臨海実験所 | 助教 | 岩礁域における多毛類の起立性単群落がもたらす生物多様性創出機構の解明 | 760,000 |
| 滋賀県 | 2022-5034 | 古川 沙央里 | 女 | | 京大大学生態学研究センター | 非常勤研究員 | 寄生的送粉者は宿主を共有する共生的送粉者を脅かすのか？ | 750,000 |
| | 2022-5025 | TANG YU | 女 | 中国 | 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 | 博士後期課程2年 | 下水処理場における薬剤耐性遺伝子の拡散可能性に関する研究 | 700,000 |
| | 2022-4072 | 井原 大 | | | 滋賀医科大学解剖学講座神経形態学部門 | 助教 | 神経幹細胞におけるp53の新規制御機構の解明 | 650,000 |
| | 2022-4080 | 古谷 朋之 | | | 立命館大学生命科学部生物工学科 | 助教 | 植物進化を駆動してきた分子ネットワークの変遷－植物特異的BZR転写因子の分子進化と研究領域拡張 | 740,000 |

〔生物系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|-----------|-----------|--------|----|----------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--|---------|
| 京都府 | 2022-4005 | 野口 勇貴 | | | 京都大学アイセムス高等研究院物質-細胞統合システム拠点 | 研究員 | 精子in vivoスクリーニング法によるオス生殖細胞特異的クローディングの同定と機能解析 | 630,000 |
| | 2022-4023 | 竹内 悠介 | | | 京都大学医生物学研究所 | 研究員 | 抗原特異的TCRシグナル刺激による自己反応性Th細胞の病原性機能獲得メカニズム | 750,000 |
| | 2022-4077 | 児嶋 大地 | | | 京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻 | 修士課程2年 | 複数安定同位体比情報を用いたスズキの河川利用実態の解明 | 810,000 |
| | 2022-4053 | 今泉 滉 | | | 京都大学大学院生命科学研究所統合生命科学専攻全能性統御機構学分野 | 修士課程2年 | 塩基置換型ゲノム編集による光合成活性増強シロイヌナズナ変異体の作出と解析 | 700,000 |
| | 2022-4057 | 前田 裕也 | | | 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻 | 修士課程2年 | アオウミガメ幼体の脱出行動における音の機能：適切な音環境の確保に向けて | 580,000 |
| | 2022-4041 | 中陳 遥香 | 女 | | 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻海洋生物環境学分野 | 修士課程1年 | 海棲哺乳類のテロメア長および変化量とその要因に関する研究 | 660,000 |
| | 2022-5043 | 吉川 雄大 | | | 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻海洋生物環境学分野 | 修士課程1年 | 赤外線ビデオカメラを用いた長期撮影によるニホンウナギの遡上に対する河川横断構造物の影響評価 | 750,000 |
| | 2022-4103 | 張 瑞軒 | | 中国 | 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 | 博士後期課程1年 | 巨大ウイルスによる宿主翻訳システムの乗っ取り機構の解明 | 700,000 |
| | 2022-5017 | 上西 太朗 | | | 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物系統学分科 | 修士課程2年 | 小型オオムカゲの系統分類：東アジアにおける多様化の過程と進化史の推定 | 440,000 |
| | 2022-4052 | 雨坂 心人 | | | 京都府立大学大学院生命環境科学研究科応用生命科学専攻 | 博士後期課程1年 | CSPを骨格とするオートクレーブ処理可能な抗体模倣分子の創生 | 740,000 |
| 2022-4081 | 田中 一樹 | | | 同志社大学大学院生命医科学研究科医工学・医情報学専攻 | 博士後期課程1年 | 微小管結合タンパク質の機能消失が音声コミュニケーションに与える影響 | 750,000 | |
| 大阪府 | 2022-4099 | 北口 あやの | 女 | | 大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻 | 修士課程2年 | エビーハゼ相利共生における「双方向の給餌」は餌環境の乏しい珊瑚礁域で発達したのか？ | 660,000 |
| | 2022-5024 | 篠原 従道 | | | 大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻 | 博士後期課程2年 | 昆虫の脱皮回数制御機構の解明に向けた新規アプローチ～タンボコロギの特殊な脱皮回数制御機構の解析～ | 590,000 |
| | 2022-4070 | 吉田 拓海 | | | 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻 | 博士課程2年 | ネコ胚性幹（ES）細胞株の樹立と始原生殖細胞様細胞への分化方法の確立 | 490,000 |
| 兵庫県 | 2022-4105 | 池垣 幸宏 | | | 神戸大学大学院理学研究科生物学専攻 | 博士後期課程1年 | 新規老化関連遺伝子EPN3の機能解析ー老化関連疾患に向けた治療法の分子基盤の確立ー | 630,000 |
| 奈良県 | 2022-5046 | 八嶋 勇氣 | | | 近畿大学大学院農学研究科環境管理学専攻 | 博士後期課程1年 | ドジョウ類における異種からのミトコンドリア移入がもたらす生態的優位性の解明 | 720,000 |
| | 2022-4097 | 向井 励 | | | 近畿大学大学院農学研究科水産学専攻 | 修士課程2年 | 魚類養殖由来の有機物は活発な細菌の動態にどのような影響を与えるか | 760,000 |
| | 2022-5005 | 上原 春香 | 女 | | 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科自然科学専攻 | 博士後期課程1年 | 学習の連鎖が引き起こす水田生態系における間接効果の評価 | 540,000 |
| | 2022-4015 | 梶本 麻未 | 女 | | 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科自然科学専攻 | 博士後期課程2年 | 寄生者フサフクロムシの性決定機構の解明：フジツボ類から性多様性を探る | 520,000 |
| | 2022-4010 | 稲葉 泰子 | 女 | | 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス領域 | 助教 | 粘膜上皮細胞がつくるMicroridges構造、粘液Mucinの挙動、粘膜バリア機能の包括的理解 | 650,000 |
| 鳥取県 | 2022-4060 | 太田 風歌 | 女 | | 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科農学専攻 | 博士前期課程2年 | 汽水と海水の境界におけるフナムシ類の分布制限要因の解明ー共生微生物と繁殖干渉に着目してー | 400,000 |

〔生物系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|-----------------------|----|------|---------------------------------------|-----------|---|---------|
| 島根県 | 2022-4039 | 門田 宏太 | | | 島根大学大学院自然科学研究科農生命科学専攻 | 博士前期課程2年 | 地上部で合成されるイソペンテニルアデニン型サイトカイニンの新たな機能の解明 | 740,000 |
| | 2022-4071 | 石橋 可菜 | 女 | | 島根大学大学院自然科学研究科農生命科学専攻 | 博士前期課程2年 | 植物における酸化ストレス誘導性プログラム細胞死の新展開：細胞死実行因子の同定 | 740,000 |
| 岡山県 | 2022-4101 | 間瀬 輝 | 女 | | 岡山大学大学院自然科学研究科生物科学専攻 | 博士前期課程2年 | ゼニゴケ仮根細胞の成長方向を指令するNIMA関連キナーゼの機能解析 | 500,000 |
| 広島県 | 2022-4028 | Akutsu Silvia Natsuko | 女 | ブラジル | 広島大学原爆放射線医科学研究所放射線ゲノム疾患研究分野 | 助教 | ゲノム編集技術を用いたトリソミーレスキュー追跡システムの構築 | 750,000 |
| | 2022-5009 | 佐藤 初 | | | 広島大学大学院統合生命科学研究科 | 博士後期課程1年 | ニセクロソジギンボにおける保護擬態の効果の実験的検証 | 260,000 |
| | 2022-4074 | GUO RUNZHAO | 女 | 中国 | 広島大学大学院統合生命科学研究科生命医科学プログラム | 博士後期課程3年 | 神経疾患の理解を目指したDynamin-2とCAMSAPの相互作用による微小管動態制御機構の解明 | 750,000 |
| | 2022-4001 | 尾山 匠 | | | 広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻生物資源科学プログラム | 博士後期課程1年 | 低密度分布に応じたハゼ科魚類の性表現の可塑性に関する研究 | 800,000 |
| 山口県 | 2022-4037 | 松井 英明 | | | 水産大学校生物生産学学科資源増殖学講座 | 助教 | 海産カイアシ類の性比の偏りへ及ぼす栄養要求性の雌雄差の影響に関する研究 | 800,000 |
| 愛媛県 | 2022-4062 | 中根 快 | | | 愛媛大学大学院理工学研究科数理物質科学専攻地球進化学コース | 博士前期課程2年 | 堆積DNAを用いた海産カイアシ類及び海棲哺乳類スナメリの長期個体数復元の試み | 680,000 |
| 高知県 | 2022-5044 | 瀬戸 美文 | 女 | | 高知大学大学院総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻 | 博士後期課程2年 | 機能形質データを用いた、維管束着生植物の生育可能な気候範囲の解明 | 500,000 |
| | 2022-4043 | 齊藤 瞭汰 | | | 高知大学大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻化学生命理工学コース | 修士課程2年 | カタユウレイボヤの心臓の分化と拍動調節に関する転写因子の同定と機能解析 | 540,000 |
| 福岡県 | 2022-4044 | 笠原 由佳 | 女 | | 九州大学医学研究院応用幹細胞医科学部門応用幹細胞医科学講座基盤幹細胞学分野 | 特任助教 | 熱性けいれん誘発性てんかん原生獲得における神経系-免疫系クロストークの役割解明 | 700,000 |
| | 2022-4026 | 工藤 三希子 | 女 | | 九州大学大学院システム生命科学府生命理学専攻 | 一貫制博士課程5年 | 分泌型タンパク質Akhirinはミクログリアの活性化を介して神経幹細胞の増殖を制御する。 | 680,000 |
| | 2022-5048 | 伊藤 直哉 | | | 九州大学大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻 | 博士後期課程2年 | コオニケシスイ属（甲虫目ケシスイ科）のオスが持つ左右非対称な大腮は儀式的闘争のシグナルか？ | 550,000 |
| 長崎県 | 2022-4051 | 平石 直樹 | | | 長崎大学大学院教育学部教育学研究科教職実践専攻 | 修士課程3年 | 海産種を中心としたアメンボ類の分子系統解析 | 680,000 |
| | 2022-4061 | 谷前 進一郎 | | | 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 | 博士前期課程2年 | 異なる空間スケールにおける海藻の群落構造を決定する環境要因の解明 | 640,000 |
| | 2022-5045 | 大槻 恒介 | | | 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 | 博士後期課程1年 | 再野生化湿地の生物多様性の評価と保全：湿地棲鳥類の生息環境を指標として | 560,000 |
| | 2022-4086 | 谷口 隼也 | | | 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科水産学専攻 | 博士前期課程2年 | カニの横歩きはどのように進化してきたか？：祖先形質の推定と生態的特性の統合解析による行動進化の解明 | 560,000 |
| | 2022-4092 | 伊藤 優花 | 女 | | 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科水産学専攻 | 博士前期課程2年 | 季節性貧酸素水塊において生産されたダークカーボンカタクチイワシは利用するか？ | 760,000 |
| 熊本県 | 2022-4006 | 加世田 将大 | | | 熊本大学大学院薬学教育部遺伝子機能応用学分野 | 特定事業研究員 | 糸球体シングルセル解析により見出したポドサイト脆弱性機構を標的とした網羅的有効性評価 | 500,000 |
| 宮崎県 | 2022-5031 | 今竹 翔一郎 | | | 宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科医学獣医学専攻 | 博士後期課程3年 | 外来キノボリトカゲの社会性を利用した駆除方法の検討およびその越冬能力の解明 | 700,000 |

〔生物系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|-------------------|----|-----|---------------------------------------|----------|---|---------|
| 宮崎県 | 2022-5041 | 南 斗真 | | | 宮崎大学大学院農学研究科植物生産環境科学コース | 修士課程2年 | タバコカスミカメ <i>Nesidiocoris tenuis</i> の共生細菌リケッチアの役割解明 | 650,000 |
| | 2022-5003 | 瀬戸口 優乃 | 女 | | 宮崎大学大学院農学研究科農学専攻応用生物科学コース | 修士課程2年 | 管理栄養士が慢性腎臓病患者のための低カリウム含有サツマイモを作る | 700,000 |
| 鹿児島県 | 2022-5030 | 内村 望空 | 女 | | 鹿児島大学大学院農林水産学研究科食品創成科学専攻 | 修士課程2年 | 鹿児島在来カンキツ類の抽出油における皮膚保護作用の解明及び美白効果の評価に対する新規動物実験の構築 | 750,000 |
| | 2022-5011 | 平松 健太郎 | | | 鹿児島大学大学院農林水産学研究科食品創成科学専攻焼酎発酵・微生物科学コース | 修士課程1年 | 鏝節カビが有性世代から無性世代に変化する現象の意義とメカニズムの解明 | 750,000 |
| | 2022-4075 | 三尾 謙次郎 | | | 鹿児島大学大学院農林水産学研究科水産資源科学専攻 | 修士課程2年 | ナイルティラピア養殖での性ステロイドホルモン投与に依存しない単一性生産モデルの検討 | 500,000 |
| 沖縄県 | 2022-4058 | 福永 耕大 | | | 琉球大学戦略的研究プロジェクトセンター | 特任助教 | 代謝リズムに着目した最適給餌スケジュールの探究～時間生物学知見から美味しい魚を育てる～ | 820,000 |
| | 2022-4012 | 中島 広喜 | | | 琉球大学大学院理工学研究科 | 博士後期課程1年 | 絶滅危惧種シマトラフヒメシャコをはじめとした沿岸性希少シャコ類の探索と分類学的研究 | 660,000 |
| | 2022-4078 | Albelda Ritze lle | 女 | フィン | 琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻 | 博士課程2年 | 沖縄の深場サンゴ礁におけるサンゴ-海綿動物の種間関係 | 540,000 |
| | 2022-4016 | 古川 真央 | 女 | | 琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻 | 博士後期課程1年 | 生殖から探る造礁サンゴ類ミドリイシ属の進化メカニズム | 730,000 |
| | 2022-4029 | 鮫島 翔太 | | | 琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻 | 博士後期課程3年 | サンゴ礁海域におけるヒメジ科魚類の採餌戦略の進化と随伴魚種との相互依存的関係の解明 | 400,000 |
| | 2022-5001 | 永井 大翔 | | | 琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻 | 博士前期課程2年 | 環境DNAによる西表島固有種ショキタテナガエビと河川陸封型ヌマエビ類の分布推定および種多様性について | 650,000 |

2022 年度複合系総評

複合系選考委員会委員長

今年度も、コロナ禍が収束せず、制約が多い状況で研究をせざるを得ないと思いますが、それにもめげず、意欲的な研究計画が、多数、申請されました。複合系は、ひとつの研究テーマに、さまざまな研究分野を含むものが多いのですが、その中でも、代表的な研究分野があります。そこで、代表的な研究分野ごとに審査を行いました。各分野の総評を以下に記します。

生物分野

多様な研究提案が集まる「複合系」において、若手研究者がそれぞれ熱意を持った申請提案が多数応募されておりました。私が担当したところでは「コロナ禍での心理的なストレス」に関係するような社会性動物や実験動物を用いたストレス解明につなげようとする複数の研究提案がなされておりました。若手研究者の熱意が伝わってくる申請も多数ありましたが、申請書に用いる図表などの提示・説明の仕方が効果的になされていなかったり、第三者に自身の研究提案の核心部分を伝えきれていない申請もあり、評価上の差を生じさせていたものもありました。

化学分野

複合系のうちの化学分野の申請の内容を調べると、「化学を通して生体機能の制御に関する研究」がますます増えていることが目につきます。治療のための薬剤の活性部位の検討や、病因の化学的究明や、薬剤の剤形など多彩で、大きな成果が期待されます。ただ、生物系を選ばず複合系で申請した理由が見出されない申請もありました。

なお、「化学を通して生体機能の制御に関する研究」の分野の申請の深さは、申請者が属する研究機関・研究組織のスケールや研究者の層の厚さなどに特に大きく依存しますので、申請者個人の資質の見極めの難しさを実感しました。

一方複合系ならではの内容の申請も目につきました。「障害者の自尊感情を掘り下げるもの」などがあり、評価基準が全く異なるこれらのテーマについて判定に苦慮しました。

看護分野

今年度は、分子生物学的視点に立ったアトミスティックな研究から、日常生活行動の在り方を題材にしたホリスティックな研究など、ミクロからマクロまでの多彩なアプローチからの研究で申請されました。高評価を得た研究は、長年続けてきた先行研究の実績を踏まえたものです。特に「性差におけるメカニカルストレス感受性の検証」や、脳の「片側半球に

よる左右両上肢の直接的制御の検証」などの研究は、既存のパラダイムの変革にも迫るような研究です。その中でも今回特に注目した研究は、「視床室傍核における報酬・罰学習の神経機構の解明」です。当該研究は、視床室傍核内のどの回路異常が、躁・うつ状態に繋がっているのかの究明を通して、双極性障害の諸症状の原因解明に迫るものです。動物実験により仮説を検証しようとする取り組みは、少しばかり荒っぽさを感じますが、本助成金の授与にふさわしい研究であり、その成果が大いに期待されます。

地球科学分野

修士の学生と博士以上の申請者とで申請書のレベルに差が見られました。修士の学生では研究の経験が浅いためか、研究の背景や自分の研究の位置づけの記述が不十分なものが多かったです。研究室内で通常行われている議論をそのまま敷衍したような申請書が多い中で、自分の言葉で表現されているか、を重要な採択基準としました。また笹川科学研究助成では、リスクを冒してチャレンジングなテーマに挑戦する姿勢を評価する点が他の研究助成にはない特徴であり、高圧実験や断層の野外調査など研究計画どおりに進行するのか、懸念がのこるものの、大きなテーマに挑む姿勢を評価し採択しました。どのような結果になろうとも貴重な体験として活かしてほしいと思います。

人間科学分野

複合系にも、基礎生命科学の基盤が求められています。細胞が生命の単位であり、多細胞生物では、自らの生きる環境を細胞外マトリックス分泌により構築します。その原理を導入した肝組織構築技術研究を評価しました。細胞は環境応答して適応する大きな可塑能力を有しています。骨格筋では当たり前ですが、視覚や聴覚など、高齢社会で重要になる組織においては、未だ概念さえもできていません。そのようなときに、内耳保護機能の強化に向けた研究申請は重要です。

運動による海馬の幹細胞の分裂には、骨格筋から分泌されるミオカインが短期記憶に必須です。腸脳相関について神経系のみならず腸内細菌が関与する可能性は高いと思います。局所的な炎症が全身的な炎症となり神経症の背景を作りだしてしまうメカニズムの解明が期待されます。また運動適応のグルココルチコイド・ストレスホルモンの時系列応答から、不適応のメカニズムも探索する研究企画は面白いと思います。選手のコンディショニングは、一般人への1日の生活リズム形成にも役に立つでしょう。理学療法とスポーツ科学や再生医学は、もっと緊密な関係が生まれる必要がありますが、その重要性を示唆する研究申請（膝の前十字靭帯損傷）への脂肪幹細胞治療と適切な理学療法は、一般的になりつつある人工関節に代わる立位歩行する人間にとっての希望です。リハビリは本人が行う必要があります。それには本人が自分の骨格筋への働きかけを適切に行える必要があります。神経と筋は運動単位として機能するため、筋電図を、運動単位で解析できるような技術の開発研究は重要です。さらに定説を生理学だけではなく、骨格筋の収縮タンパク質の定量まで行い、筋肥

大と筋力増強との関係性をあきらかにする申請にも期待したいと思います。

最後に、本研究費の枠組で可能な計画書の作成をお願いしたいと思います。素晴らしい内容でも、実現できない研究は、計画書となりません。また国際学会への渡航費が主要な計画書は、他の研究費に応募してほしいと思います。大学院生も応募できる萌芽的独創的な研究がたくさんあるので、上記のような研究費の申請は内容が面白くても採用は難しいことを述べておきます。複合系の申請書も、現代社会における科学の進展を背景にしているので独創的といえず、基礎から考えての計画自体の立ち位置が異なる計画書も受け入れがたいものです。科学の成果が社会に還元されていない理由は、教養教育の消失であり、受験対応に追われている高校までの教育にあるでしょう。その抜本的な改革が必要であるとの印象を得ました。「総合知」「ジェンダー・イノベーション」というキーワードが、昨年（令和3年）の科学技術・イノベーション基本計画に出されましたが、それを末梢的な問題にせず、大学の教員及び申請者が、ネットで学べる時代にもなっているので、本複合領域への申請が、基礎を押さえて、なおかつ社会への応用に結びつく計画書になることを期待したいと思います。

複雑系分野

昨年は真鍋叔郎先生がノーベル賞を受賞されました。受賞理由は「複雑な物理システムの理解に対する画期的な貢献」で、他の受賞者とともに複雑系の物理にノーベル賞が与えられたのは初めてです。それだけ、複雑系に対する世間の関心が高まっているということだと思います。それと関係があるかどうかはわかりませんが、今年の研究テーマは複雑系に関する興味深いものが多くありました。予測困難な世界を生きる若い人たちが、今後このような研究に興味を持ってくれることに期待しています。

その他の分野

今年の申請で、特に、多かったのは、農業分野の研究テーマです。「温泉熱を利用したチェリオモヤの栽培」などのテーマです。いずれも、実用と直結しています。複合系の申請には、応用科学的な側面があることを注意したいと思います。

今年の申請で、「デザイン学」分野の申請がありました。「デザイン学」とは、聞きなれない学問です。しかし、多くの学科では、「デザイン学科」があり、多くの学生が「デザイン学」を学んでいます。「デザイン学」は、かなり広範囲の研究テーマが含まれるので、複合系の研究といえるでしょう。

新しい研究分野といえば、「知覚」と「脳」との関係など、高度な脳機能を研究テーマにするものがありました。

〔複合系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|----------------------------|----|-----|-------------------------------------|----------|---|---------|
| 青森県 | 2022-6025 | 田代 達也 | | | 弘前大学大学院理工学研究科理工学専攻自然エネルギー学コース | 博士前期課程1年 | 廃業温泉施設の温泉熱を利用した寒冷地における亜熱帯果樹チェリモヤの栽培検討によるまちおこしへの貢献 | 700,000 |
| 福島県 | 2022-6002 | 荻野 魁人 | | | 会津大学大学院コンピュータ理工学研究科コンピュータ・情報システム学専攻 | 修士課程1年 | 機械学習による月の南北極未踏地域の電子地図製作 | 700,000 |
| 茨城県 | 2022-6001 | 河村 健太 | | | 茨城県立医療大学保健医療学部理学療法学科 | 助教 | 脊髄損傷後の超早期呼吸リハビリテーションによる横隔神経運動ニューロンの可塑性の解明 | 700,000 |
| | 2022-6011 | 佐藤 瑞穂 | | | 常磐大学人間科学部健康栄養学科 | 助教 | トップアスリートの全身栄養状態を評価する尿検査方法の開発 | 550,000 |
| | 2022-6036 | SHI ZHIYUAN | 女 | 中国 | 筑波大学大学院環境学学位プログラム | 博士後期課程1年 | 浅海サンゴによるヨウ素同位取り込みメカニズム解明－海洋への人工放射性ヨウ素供給変遷史復元を目指して | 810,000 |
| | 2022-6032 | 豊島 理公 | | | 筑波大学大学院人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻 | 博士後期課程3年 | 共感と孤独感を生み出す手綱核オレキシンシグナル伝達 | 750,000 |
| 埼玉県 | 2022-6003 | 加納 拓馬 | | | 埼玉県立大学大学院 | 博士後期課程3年 | 脂肪由来幹細胞エクソソームは、完全損傷前十字靭帯の自己治癒能力を促進しうるか | 600,000 |
| | 2022-6043 | 舩越 逸生 | | | 埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修 | 博士前期課程2年 | 末梢筋の運動単位協調構造から解明する高齢者歩行速度低下要因 | 500,000 |
| | 2022-6005 | 村田 健児 | | | 埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科 | 助教 | 筋芽細胞を対象とした性差におけるメカニカルストレス感受性の検証 | 600,000 |
| 千葉県 | 2022-6042 | 石坂 勇毅 | | | 千葉大学大学院融合理工学府基幹工学専攻医工学コース | 博士後期課程2年 | 内耳保護機能の強化に向けたオリーブ蝸牛束反射の予測的制御メカニズムの解明 | 700,000 |
| | 2022-6033 | 北畠 京祐 | | | 東邦大学大学院理学研究科 | 博士後期課程2年 | 海洋堆積物中におけるアナジャコUpogebia major由来の環境DNAの動態の解明 | 710,000 |
| 東京都 | 2022-6004 | 尹 珊珊 | 女 | 中国 | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科食機能保全科学専攻 | 博士前期課程2年 | アコヤガイ足糸のバイオミメティクス素材としての可能性 | 460,000 |
| | 2022-6016 | Duran Gomez Gloria Silvana | 女 | ペルー | 東京海洋大学大学院海洋資源環境学専攻 | 博士前期課程2年 | 乱流混合とそれに伴う海洋化学生物学的応答をサブメソスケールで解像する新しい自由落下曳航式観測の確立 | 870,000 |
| | 2022-6041 | Sun Jingyan | 女 | 中国 | 東京大学大学院学際情報学府 | 博士後期課程3年 | 演技訓練場面のコミュニケーションにおける情動的・認知的プロセス：マルチチャンネルの情報による検討 | 650,000 |
| | 2022-6031 | 渡辺 樹 | | | 東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域 | 博士前期課程2年 | 後期更新世テフラ編年の高精度化－湿原堆積物とクリプトテフラ分析を用いた試み－ | 800,000 |
| | 2022-6045 | 遠藤 凌雅 | | | 東京農工大学大学院工学府応用化学専攻 | 博士前期課程2年 | ECMの弾力性が、がん発生段階から転移までの各ステップにもたらす影響の調査 | 610,000 |
| | 2022-6006 | 唐木 文霞 | 女 | | 北里大学薬学部 | 助教 | グレリン受容体のアロステリック結合部位に関する研究：存在の証明と機能的意義の解明 | 600,000 |
| 神奈川県 | 2022-6039 | 杉野 広堯 | | | 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 | 博士課程2年 | 片側半球による左右両上肢の直接的制御の検証 | 750,000 |
| | 2022-6028 | 相澤 彩美子 | 女 | | 慶應義塾大学大学院理工学研究科開放環境科学専攻 | 博士後期課程1年 | 揮発性2溶媒混合液の蒸発を伴う浸透過程で発生する動的界面挙動のRichards式による解析 | 700,000 |
| | 2022-6013 | 相田 泰毅 | | | 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻 | 博士課程3年 | 『環状アミドの反復連結法』を用いたオリゴビロリジン骨格の迅速構築とそのRNA認識能の評価 | 750,000 |
| | 2022-6023 | 米谷 珠萌 | 女 | | 明治大学大学院物理学専攻 | 博士前期課程2年 | 高精度高圧力実験と統合熱力学モデルから迫る地球核ケイ素含有量の解明 | 800,000 |

〔複合系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|-------------------|----|------|---|----------|--|---------|
| 山梨県 | 2022-6021 | 高守 幸男 | | ブラジル | 山梨大学大学院医工農学総合教育部統合応用生命科学専攻生命工学コース | 博士後期課程1年 | 炎症性疾患に関連するIL-17RA/IL-17間相互作用を阻害する新規人工化合物の創製と機能解析 | 750,000 |
| 新潟県 | 2022-6020 | 劉 自振 | | 中国 | 長岡技術科学大学大学院工学研究科エネルギー・環境工学専攻 | 博士後期課程1年 | 微小腫瘍の超早期診断・治療を実現するクロロフィル含有アパタイトナノ結晶の創製 | 550,000 |
| 富山県 | 2022-6040 | 大塚 進平 | | | 富山大学大学院理工学教育部生物圏環境科学専攻 | 修士課程2年 | 巨大地震発生メカニズム解明にむけて～生物地球化学のプロキシからみる日本海溝海側の水循環像～ | 760,000 |
| 岐阜県 | 2022-6015 | 竹内 朝陽 | | | 岐阜大学大学院連合農学研究科生物資源科学専攻 | 博士課程2年 | 脂質代謝改善ペプチドIIAEKの媒介する新規腸コレステロール吸収調節系の先進的展開 | 700,000 |
| 愛知県 | 2022-6024 | 三島 大雅 | | | 名古屋工業大学大学院工学研究科工学専攻生命・応用化学系プログラム | 博士前期課程2年 | レジスタンス運動による骨格筋適応におけるmTORC1の役割の再考 -筋力に着目して- | 550,000 |
| | 2022-6007 | 宇佐見 享嗣 | | | 名古屋大学大学院理学研究科 | 研究員 | 昆虫による分子ナノカーボンの生体内動態機構の解明 | 700,000 |
| 滋賀県 | 2022-6022 | 瀬川 海 | | | 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科教科教育実践学専攻・生活・健康系教育連合講座（滋賀大学配属） | 博士後期課程2年 | 知的障害児の自尊感情を育む親子SUPヨガ | 550,000 |
| 京都府 | 2022-6037 | 武藤 大知 | | | 京都大学大学院人間・環境学研究科相関環境学専攻 | 修士課程2年 | 魚類耳石の超精密安定同位体分析技術の高度化とマアジの生態解明への応用 | 740,000 |
| | 2022-6026 | 南部 正裕 | | | 京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻 | 修士課程2年 | 気候変動に伴う集中豪雨の増加が日本海側の閉鎖性海域における塩分場および影響の解明 | 750,000 |
| | 2022-6044 | 鈴村 明政 | | | 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 | 博士後期課程3年 | 岩石・鉱物学的手法と同位体宇宙化学的手法の融合による太陽系開闢期における固体物質の形成環境の解明 | 700,000 |
| | 2022-6038 | 鷹取 慧 | | | 同志社大学自己組織化科学研究センター | 研究員 | 組織切片の進展応答：病態に依存したひび割れパターン | 500,000 |
| | 2022-6027 | 岡本 彩 | 女 | | 同志社大学大学院生命医科学研究科医工学・医情報学専攻 | 博士前期課程2年 | 非侵襲性人工内耳の実現可能性：赤外光レーザー刺激アルゴリズムの確立 | 800,000 |
| 大阪府 | 2022-6017 | 小笠原 佑衣 | 女 | | 大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ心理学専攻 | 博士後期課程3年 | 慢性運動期間中における起床時コルチゾール反応の応答ーアロスタティックロードによる影響を明らかにするー | 700,000 |
| | 2022-6019 | 千葉 幸介 | | | 大阪大学大学院薬学研究科創成薬学専攻 | 博士後期課程2年 | デオキシリボザイムを用いた一塩基変異選択的にRNA切断する創薬ツールの開発 | 700,000 |
| 兵庫県 | 2022-6009 | 野村 美帆 | 女 | | 神戸大学大学院海事科学研究科 | 博士前期課程2年 | プラスチックに含まれる非フタル酸可塑性剤が海藻類の増殖に及ぼす影響評価 | 700,000 |
| 岡山県 | 2022-6029 | 渡邊 知央 | 女 | | 川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科健康科学専攻 | 博士後期課程2年 | 運動を介した抗うつ効果に関与する脳内分子機構の探求～TSPOの視点から～ | 750,000 |
| 広島県 | 2022-6012 | 藤田 理沙 | 女 | | 広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻 | 博士後期課程1年 | 駆動体分子と相互作用する両親媒性分子による、自己駆動体の運動様相への影響 | 700,000 |
| 徳島県 | 2022-6034 | 松尾 アモリムクリスティーナ 菜々 | 女 | | 徳島大学大学院医歯薬学研究部薬科学教育部薬学専攻 | 博士課程1年 | 白金製剤の体内動態制御による抗腫瘍効果の亢進と副作用低減に関する研究 | 600,000 |
| 愛媛県 | 2022-6030 | 冷 茜 | 女 | 中国 | 愛媛大学大学院理工学研究科先端科学特別コース | 博士後期課程2年 | 瀬戸内海における栄養塩総量と基礎生産に対する河川起源と太平洋起源栄養塩の寄与 | 810,000 |
| 高知県 | 2022-6008 | 大成 冬真 | | | 高知大学大学院総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻 | 修士課程1年 | 海洋環境等での自己分解制御能を有する生分解性プラスチックの開発 | 800,000 |

〔複合系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|--------------------|----|-------|--------------------------|-----------|--|---------|
| 福岡県 | 2022-6018 | Cicenaite Karolina | 女 | リトアニア | 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻 | 博士課程1年 | 包摂的な社会のための行動変容の設計戦略 | 500,000 |
| | 2022-6035 | 西 凌太郎 | | | 九州大学大学院工学府化学工学専攻 | 修士課程2年 | 肝細胞－類洞内皮細胞－胆管が複合した三次元肝組織構築技術の創出 | 750,000 |
| 熊本県 | 2022-6046 | 千々和 遊木 | 女 | | 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻 | 博士前期課程2年 | 熊本県の農地におけるマイクロプラスチックの分布・動態の解明 | 600,000 |
| 沖縄県 | 2022-6010 | 梶原 侑馬 | | | 沖縄科学技術大学院大学神経計算ユニット | 一貫制博士課程2年 | 視床室傍核における報酬・罰学習の神経機構の解明－双極性障害の病態解明を目指して－ | 600,000 |
| | 2022-6014 | 菊池 顕生 | | | 沖縄科学技術大学院大学進化ゲノミクスユニット | 博士課程1年 | シロアリが建設する構造の力学的な機能とそれをつくる行動メカニズムの解明 | 550,000 |

2022 年度実践系総評

実践系選考委員会委員長

2022 年度の実践研究計画の選考結果を踏まえ、次年度の申請の際に参考にしていただきたい点について述べておきたいと思います。昨年同様、本年度の実践研究部門は、実践研究 A「教員・NPO職員が行う問題解決型研究」と実践研究 B「学芸員・司書等が行う調査・研究」に分けて募集しました。

本年度の全体傾向と特徴

昨年に引き続き本年度も、今日的な社会課題（文化財保存、環境問題、地域づくり、生涯学習支援、高齢者保健医療、ICT を利用した教育活動、特別支援教育など）の解決を目指そうとする意欲的な研究の申請がありました。研究計画も優れたものが多い印象でしたが、一方で、実践研究部門の助成の方針と特徴の理解不足や実践の場を持っている申請者でも実践を通じて課題解決を目指すというより課題そのものを研究する研究計画で、学術研究部門に申請されるべき研究も見受けられました。分野別に見ると、例年は歴史学の分野からの申請が少なかったのに対し、本年度は同分野からの申請が多かったのが特徴のように思います。また新しい分野では、芸術系、天文学系、アーカイブズ学・公文書館系の申請もありました。

求められる社会的課題

毎年、一定数見られることですが、本研究助成の実践研究部門の趣旨にそぐわない「学術研究」と考えられる研究が今年度も見受けられました。実践研究 A「教員・NPO職員等が行う問題解決型研究」では、教員が行う問題解決型研究として、主に小・中・高等学校の所属教諭が、その教育実践の場で生じている課題を生徒とともに考え、実践し、教育の質の向上を図る一連のプロセスに関する研究に助成を行うことを想定しています。研究の多様性は尊重されるべきものですが、「実践研究助成」において申請が期待されている分野・課題・研究方法をもう少し検討することが必要である、と審査員一同感じているところです。さらに、「研究」というには調査等の方法論がナイーブ過ぎて、さしたる知見は得られないのではないかと見られるものについては、申請前に、所属組織等において十分精査の機会を持つことが求められます。申請書の中には、大変素晴らしいものがある一方で、助成申請の段階にまで至っていない研究計画が例年よりも散見されたように思います。また、「推薦文」を見ていますと、申請者が作成（代筆）したものを、推薦者が吟味も

せず署名しているものも見受けられます。推薦文は審査対象ではありませんが、審査の際の重要な判断材料となります。この点では、推薦者の皆さまにも更なるご指導・ご助言をお願いしたいところです。

研究予算の使用目的

助成する側からすれば、今日的な社会課題の解決に向けて「実践研究」していただき、その研究成果を社会還元することによって、汎用的なものであれば社会的共有が図られ、地域の解決課題であれば地域振興に役立たせ、ひいては日本や世界貢献できる研究の振興を促したいと考えていますし、申請側からすれば、「競争的外部資金の導入」によって研究費を確保する、ということになるでしょう。そのために申請課題が本助成の主旨や助成方針に適しているか否かを審査しています。「実践研究部門」では、相応しくない申請として、①問題を解決すべき場が「実践の場」として相応しくない研究、②広くその分野の活性化に繋がる研究であっても「学術研究」とみなされる研究、③組織の管理運営改善（業務運営は別）などに相応しくない研究、大半の研究費が展示や展示物の制作費とみなされる研究は「不適格」とみなしています。反対に、「研究の動機と目的が明確であること」「研究計画と研究経費が具体的かつ合理的に構成されていること」「その研究が実践の場を通して広くその分野の活性化に寄与することが期待されること」「問題として扱う内容が新規性に富み、画期的な挑戦であること」などを評価します。

こうした観点から審査しますと、研究計画に対して研究費の使途が明確でない申請も散見されます。例えば、研究費のほとんどが、「論文投稿費用」や「学会参加費・登録費」、「学会参加のための旅費・交通費」「目的が曖昧な海外出張旅費」も申請書の中には毎年のようにあります。「実践の場」で課題解決を行う趣旨の研究計画であっても、大学教授からの反復的なレクチャーや文書作成指導、機材購入費などの費用計上は実践研究部門の助成の趣旨にそぐわないと考えます。調査のための旅費・交通費は当然に必要な費用ではあっても、その研究テーマに則して何故そのフィールドをあえて調査するのか明確に書かれていない計画書も散見されました。「図書費」であれば「単価×〇冊」という概算額しか示されておらず、「実践の場」での研究にどのように関連するのか明記されていないケースも多々あります。また初めて実践を始めるために必要な機材や消耗品を助成金で賄おうとする申請では、実践自体は評価できるものでも、実践の継続性に懸念が残るものもありました。翻訳外注費、データ入力人件費一式、印刷物作成のためのデザイン費、ポスター作製費など、経費の割合が7割～8割を超えているような申請もあり、実践研究のための必要経費と判断できない申請もあります。学会費の捻出や自己負担するのが妥当と思われる経費が計上されているケースも少数ながらあり、この点は、研究

者としての倫理や姿勢に照らして再考していただきたいと思いますし、研究助成を申請される際には、本助成制度の趣旨を今一度確認され、十分な準備をされて申請をしていただきたいと思います。

一方、インターネットを利用した教材やコンテンツ開発のほか、3D スキャン・3D プリンターの利用や 3D データを活用した研究など、先端技術の利用に取り組む研究も本年度の申請では多くありました。高性能かつ安価な映像機器やソフト類が市販されるようになった影響もあるのかも知れませんが、画像・映像・3D 画像データベース構築に関する申請はいずれもその学術的意義は認められますが、それを構築することによって、今日的課題をどう解決し、市民社会にどのような利益がもたらされるのか、データベース類の「活用」という視点についても深めた課題設定が求められます。

最後に

本年度はいずれの申請内容も興味深く、申請の中には、本研究助成の理念・趣旨から見て、成果を大いに期待したいものもあったことも申し添えておきたいと思います。様々な館や市民と連携した申請も多かったこともひとつの特徴と言えるでしょう。異なる組織、教育施設、医療・福祉施設、博物館・図書館・公文書館・大学・ボランティアなど様々な立場の人々が協働しながら研究を行い、社会問題の解決に向けて新しい視点を提起することは本研究助成の趣旨にも合致します。多様化・複雑化する社会が生み出す新しい課題に向かって「果敢にチャレンジし新しい途を開くような研究」という本研究の助成趣旨を鑑み、より広く地域的・社会的・現代的な文脈に即した申請が増えることを期待しております。コロナ禍における厳しい状況が続く今日だからこそ実践研究を進め、「新しい課題」へ挑戦していただきたいと願っております。

〔実践系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|--------|----|----|-----------------------|----------|--|---------|
| 北海道 | 2022-8004 | 山田 菜月 | 女 | | 市立小樽美術館 | 学芸員 | 美術と福祉の多視点による障害者の芸術作品の展示に関する研究－発展期における新たなアーカイブ作成－ | 290,000 |
| 宮城県 | 2022-8007 | 小嶋 翔 | | | 吉野作造記念館 | 主任研究員 | 民間による地域アーカイブズの経営と活用 | 330,000 |
| 埼玉県 | 2022-8022 | 柴田 真緒 | 女 | | 戸田市立美女木小学校 | 教諭 | Covid-19が子どもの発達に与える影響・困難に係る調査研究：睡眠・生活リズムの困難を中心に | 330,000 |
| 千葉県 | 2022-8020 | 根上 春 | 女 | | 千葉大学大学院融合理工学府数学情報科学専攻 | 博士前期課程2年 | 「境界なき数学」を実現するコミュニティ形成の実施 | 380,000 |
| 東京都 | 2022-8002 | 高橋 唯 | | | 慶應義塾幼稚舎サイエンスミュージアム | 教諭 | 都心部の学校でボーリングコアを採取し、学校の地下の地層を観察する授業実践 | 360,000 |
| | 2022-8021 | 寒河江 核 | | | 筑波大学附属桐が丘特別支援学校本校高等部 | 教諭 | 肢体不自由児の体育における深い学びの実現に向けた遠隔合同授業の実践 | 360,000 |
| | 2022-8006 | 倉方 慶明 | | | 東京外国語大学文書館 | 特定研究員 | 地域の公文書を活用した中学校社会科公民教材キット開発のための実践的研究 | 320,000 |
| | 2022-8010 | 高松 美紀 | 女 | | 東京学芸大学附属国際中等教育学校 | 教諭 | 21世紀型スキルを育成する学校図書館の実践研究－デジタル化の課題と情報リテラシーの育成に焦点を当てて | 330,000 |
| | 2022-8019 | 岡田 智秀 | | | 日本大学理工学部まちづくり工学科 | 教授 | 海岸地域の観光資源を活用した「ワーケーション」の実施要件に関する実践的研究 | 330,000 |
| 長野県 | 2022-8008 | 山中 史江 | 女 | | 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 | 技術専門職員 | 一般市民との協働による地域資源を活用した生涯学習の場「みんなの標本庫」基盤開発 | 310,000 |
| 富山県 | 2022-8003 | 東 義詔 | | | (公財)花と緑の銀行中央植物園部企画情報課 | 主任 | 植物園と水族館との協働による海洋生物の生態調査と展示への活用 | 380,000 |
| 静岡県 | 2022-8001 | 坂田 尚子 | 女 | | 静岡科学館る・く・る | 企画担当 | 博物館科学館等社会教育施設における幼児から小学生へ向けたSTEM/STEAM教育プログラムの実践 | 300,000 |
| 大阪府 | 2022-8011 | 伊藤 幸子 | 女 | | (一社)友愛くらしの相談所 | 代表理事 | 高齢障害者に対する介護保険制度移行期の支援のあり方に関する研究－ケアマネジャー等への質的調査から | 330,000 |
| | 2022-8014 | 奥田 謙一 | | | NPO法人全国重文民家の集い | 理事 | 住み手とともに生きる重文民家の生活文化史を伝えていくためのオーラル・ヒストリーの調査と記録制作 | 360,000 |
| | 2022-8012 | 宮丸 晶 | 女 | | 大阪市立科学館 | 技術職員 | オンライン配信と展示を融合させた新たな教育普及手法の開発－コロナ時代の科学館の現場から－ | 160,000 |
| | 2022-8009 | 長谷川 匡弘 | | | 大阪市立自然史博物館 | 学芸員 | 博物館標本を活用した身近なハナバチ同定のためのガイドブックの作成および普及教育の推進 | 270,000 |
| | 2022-8013 | 松山 ひとみ | 女 | | 大阪中之島美術館 | 学芸員 | テーブルメディア再生エラー同定のための知識とリソースの共有 | 300,000 |
| 岡山県 | 2022-8017 | 塩飽 敏史 | | | (公財)水島地域環境再生財団 | 理事兼研究員 | 高校生による浅海域の底質中マイクロプラスチックの空間的・時代的分布調査～地域社会の意識変革に向けて～ | 370,000 |
| | 2022-8015 | 居村 貴子 | 女 | | 川崎医療短期大学医療介護福祉学科 | 講師 | 介護福祉士養成における教育プログラムの強化－他職種との連携が必要となる知識獲得のために－ | 210,000 |
| 徳島県 | 2022-8005 | 小川 誠 | | | 徳島県立博物館 | 課長 | 博物館活動の活性化の実践「ボランティアと一緒に光る貝の展示を作ろう」 | 340,000 |
| 福岡県 | 2022-8016 | 重野 裕美 | 女 | | 九州大学総合研究博物館 | 専門研究員 | 自己肯定感を育むアートワークの開発と検証－入院児と健常児を繋げる塗り絵ブック制作と遠隔交流 | 330,000 |

〔実践系〕

| 都道府県 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関 | 職名 | 研究課題 | 助成金額 |
|------|-----------|-------|----|----|-------------|-----|------------------------------------|---------|
| 長崎県 | 2022-8018 | 山口 弘幸 | | | NPO法人エスペランサ | 理事長 | 精神障害当事者と協働した学校メンタルヘルスリテラシー教育の実証的研究 | 200,000 |

2022年度笹川科学研究助成 応募・採択状況

学術研究部門

| 領域 | 人文・社会系 | 数物・工学系 | 化学系 | 生物系 | 複合系 | 合計 |
|------|--------|--------|------|------|------|--------|
| 採択件数 | 30件 | 28件 | 46件 | 160件 | 46件 | 310件 |
| 応募件数 | 97件 | 99件 | 162件 | 533件 | 172件 | 1,063件 |

| 属性 | 大学院生 | | 女性 | | 留学生及び外国籍研究者 | |
|----|------|-------|------|-------|-------------|-------|
| | 件数 | 全体比 | 件数 | 全体比 | 件数 | 全体比 |
| 採択 | 237件 | 76.5% | 102件 | 32.9% | 32件 | 10.3% |
| 応募 | 753件 | 70.8% | 324件 | 30.5% | 105件 | 9.9% |

実践研究部門

| 領域 | 実践A系 教員・NPO等 | 実践B系 学芸員・司書等 | 合計 |
|------|-----------------|-----------------|-----|
| 採択件数 | 13件 | 9件 | 22件 |
| 応募件数 | 43件 | 27件 | 70件 |

2021年度笹川科学研究奨励賞 概要

【笹川科学研究奨励賞について】

日本科学協会では、笹川科学研究助成の対象者となった若手研究者の励みとなるよう、2007年度から「笹川科学研究奨励賞」を創設いたしました。

受賞者の選考にあたっては、「さまざまな理由で他から助成の得難い研究」を考慮した上で、次の視点を加えて笹川科学研究助成選考委員会で選出いたしました。

- ・研究の姿勢が真摯であること
- ・研究の遂行に創意と工夫の努力がうかがえること
- ・研究成果につながる結果を出していること
- ・今後の研究の進展が期待できること
- ・次年度以降も研究に従事すること

2021年度笹川科学研究助成においては、研究を完了した314名の中から、16名が「笹川科学研究奨励賞」に選出されました。

受賞者の研究内容については当会Webサイトで公開しておりますので、よろしければご覧ください。

HOME > 協会の助成活動 > 笹川科学研究助成 >

奨励賞 > 2021年度笹川科学研究奨励賞 受賞者一覧

<https://www.jss.or.jp/ikusei/sasakawa/shoureishou/shoureishou2021.html>

2021年度笹川科学研究奨励賞 受賞者一覧

| 研究領域 | 研究番号 | 助成者名 | 性別 | 国籍 | 所属機関：助成時点 | 職名：助成時点 | 研究課題 |
|---------|-----------|-----------------------|----|----|----------------------------------|----------|--|
| 人文・社会 | 2021-1005 | 于海春 | 女 | 中国 | 早稲田大学現代政治経済研究所 | 次席研究員 | 腐敗問題報道における中国地方紙のメディアフレームの比較分析－計量テキスト分析を中心に－ |
| | 2021-1021 | 宮本佳和 | 女 | | 国立民族学博物館 | 外来研究員 | ナミビア・ヘレロの祖先観念と伝統的権威の祖先の土地返還運動に関する人類学的研究 |
| 数物・工学 | 2021-2026 | 世田拓也 | | | 京都大学大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻 | 博士後期課程2年 | リサーチジェンスを用いたアノマリー相殺構造の拡張と応用 |
| | 2021-2030 | TANG TAO | | 中国 | 奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科物質創成科学研究領域 | 博士後期課程2年 | フェムト秒レーザー誘起衝撃力を用いた1細胞物性のオンチップ電気計測手法の開発 |
| 化学 | 2021-3003 | Kotchakorn T. Sriwong | 女 | タイ | 東京工業大学生命理工学院生命理工学系 | 博士課程2年 | 3Dプリンターとナノテクノロジーを駆使する環境調和型の新規酵素反応システムによる有用物質の合成 |
| | 2021-3035 | 西野龍平 | | | 立教大学大学院理学研究科化学専攻 | 博士後期課程3年 | ベンゼンのケイ素類縁体の合成と性質解明を通じた芳香族性に関する研究 |
| 生物 | 2021-4080 | 荒木球沙 | 女 | | 国立感染症研究所寄生動物部 | 研究員 | 電子顕微鏡を用いた休眠期マラリア原虫のオルガネラ3D構造解析 |
| | 2021-4093 | 土田仁美 | 女 | | 名古屋大学大学院生命農学研究科動物科学専攻 | 博士後期課程2年 | 泌乳ラットにおける性腺機能抑制の脳内メカニズムの解明 |
| | 2021-5011 | 瑤寺裕 | | | 北海道大学大学院農学院農学専攻 | 博士後期課程2年 | 食べ物と食べ方を変化させ種多様化する「葉もぐりタマムシ」の分類・系統に関する研究 |
| | 2021-5043 | 瀬川太雄 | | | 日本大学生物資源科学部獣医学科 | 助教 | イルカ類の胃から分離した新種ウレアプラズマ属細菌の機能解析 ～イルカ類との共生関係の解明を目指して～ |
| 複合 | 2021-6007 | 宮本大祐 | | | 富山大学アイドリング脳科学研究センター | 准教授 | オール光学式電気生理学による記憶の固定化を担う睡眠脳ダイナミクスの時空間構造の理解 |
| | 2021-6030 | 古賀達也 | | | 京都大学大学院農学研究科森林科学科森林・人間関係学専攻 | 博士後期課程1年 | ジビエ利用を軸とする地域協働型野生動物管理システム |
| 海に関する研究 | 2021-1032 | 盧曉鳳 | 女 | 中国 | 東北大学大学院国際文化研究科国際文化研究専攻 | 博士前期課程2年 | 環東シナ海における海域交流としての僧侶の役割 |
| | 2021-6026 | 高井優生 | | | 九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学科 | 博士後期課程2年 | 海産魚類におけるエンドサイトーシスはマイクロプラスチックのベクター効果を増強するか？ |
| 実践 | 2021-8006 | 岩田祐佳梨 | 女 | | 特定非営利活動法人チア・アート | 理事長 | 院内のコミュニケーションを支援するアートプログラムの開発－筑波メディカルセンター病院を事例として－ |
| | 2021-8007 | 小河原孝彦 | | | フォッサマグナミュージアム学芸係 | 主任主事 | 特別展「糸魚川の山々」におけるVR登山展示の実践 ～コロナ時代の展示方法の模索～ |

公益財団法人 日本科学協会

発行日 2022年4月22日

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル5階

TEL : 03-6229-5365 FAX : 03-6229-5369

E-mail : josei@jss.or.jp URL : <https://www.jss.or.jp>